

京都市高齢社会対策実態調査の結果報告について

京都市では、総合的な高齢社会対策に取り組むための基礎資料として、昭和55年度から5年毎に「高齢者生活実態調査」を、平成2年度から10年毎に「高齢者問題に関する市民意識調査」を実施しており、平成17年度に、5年毎に行う「高齢者生活実態調査」とともに、地域で高齢者をサポートしていく上で重要な役割を果たしている団体についての「ボランティア団体・NPO団体調査」を京都市高齢社会対策実態調査を立ち上げて実施しました。この度、その結果がまとまりましたので、次のとおりお知らせします。

なお、調査結果につきましては、報告書及び概要版を作成しています。

1 調査の概要

(1) 高齢者生活実態調査

ア 調査対象者

京都市内に在住する60歳以上の市民のうち、無作為抽出による5,000人

イ 調査内容

基本属性、子どもとの同居の状況、本人の家庭の中での役割、仕事・就労・収入、近所づきあい、住宅・住環境、生活上困っていること・相談相手、知りたい情報、関心のある社会問題、家庭にある生活安全機器・情報機器、交友関係、参加している社会活動、社会活動への参加意向、今後拡充すべき高齢者福祉サービス、自由記述

ウ 調査実施期間

- ・ 基準日：平成17年9月1日
- ・ 調査実施期間：平成17年9月8日～9月22日

エ 調査方法

- ・ 調査対象者名簿の作成

調査対象者名簿は、平成17年9月1日現在の住民基本台帳登録者及び外国人登録者の中から無作為に抽出した。

- ・ 調査方法

調査票は無記名とし、郵送配布、郵送回収方法とした。

オ 調査方法

- ・ 配布数：5,000人、有効配布数：4,953人
- ・ 有効回収数：3,633人、有効回収率：73.3%

(2) ボランティア団体・NPO団体調査

ア 調査対象者

京都市内で活動しているボランティア団体及びNPO団体の中で、高齢者の社会参加に関わると考えられる団体412団体。

イ 調査内容

団体属性， 団体構成員の状況， 団体の設立動機・年間の活動予算， 団体の活動分野， 団体活動のサービス対象者， 団体活動のメリット， 団体活動を展開する上での相談相手， 団体活動への高齢者の参加についての考え方， 多世代・他団体との連携について， 団体活動に際しての課題， 団体活動の今後の展開方針， 市民活動の促進方法， 高齢者に対する活動の考え方， 住民相互の助け合いの考え方

ウ 調査実施期間

- ・基準日：平成 17 年 9 月 1 日
- ・調査実施期間：平成 17 年 9 月 8 日～ 9 月 2 2 日

エ 調査方法

- ・調査対象者名簿の作成

ひと・まち交流館に登録し，インターネットの Web で団体情報を公開している団体の中から，高齢者の社会参加活動に関係していると考えられるボランティア団体・NPO 団体を抽出した。

- ・調査方法

郵送配布，郵送回収方法とした。

オ 調査方法

- ・配布数：412 団体，有効配布数：399 団体
- ・有効回収数：221 団体，有効回収率：55.4%

2 調査体制（京都市高齢社会対策実態調査研究会委員）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属団体・役職等
上村 智	（社）京都市老人クラブ連合会事務局長
大谷 善一	（福）京都市社会福祉協議会 経営室室長
岡山 佳代子	京都市東山区役所福祉部長
加藤 博史	龍谷大学短期大学部教授
源野 勝敏	京都市老人福祉施設協議会副会長
浜岡 政好	佛教大学社会学部教授
松本 重雄	京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課長

（所属団体・役職は平成 1 8 年 3 月現在）

3 調査結果の主な特色

(1) 高齢者の世帯の状況

高齢者だけの世帯が増加

「世帯構成」では、前回調査と比べて「単身世帯（ひとり暮らし）」（16.2% 17.0%）や「一世代（夫婦のみ）」（37.4% 38.9%）など的高齢者だけの世帯が増加する傾向がみられる。

子どもとの同居は近居志向

別居している子どもとの「同居意向」では、「できれば同居したいと思う」の比率が低下傾向（14.8% 10.3%）にあり、その分、「同居したいと思わないが、近くに住んで欲しい」の比率が増加（42.7% 53.6%）し、近居志向が強まっている状況がうかがえる。

(2) 高齢者の住居

高齢者の7割強が持ち家

居住形態では、「持ち家（一戸建て）」が63.3%を占めている。その他の「持ち家（マンションなど）」を加えると76.1%が持ち家となっている。

住み替えるなら、「京都市内のまちなかで便利なところ」

住み替えを考えているかどうかについては、「考えている」人は12.3%と1割程度であり、その住み替えを考えている地域は、「京都市内のまちなかで便利なところ」が43.8%と多くなっている。

(3) 高齢者福祉サービス等へのニーズ

高齢者福祉サービス等への市民のニーズとしては、身近なところでのサービスの充実や、地域内での支え合いの充実が多い

今の地域で必要なこと（複数回答）については、「地域内の身近な医療サービス」（29.5%）、「近所での助け合い意識・協力意識」（27.6%）、「介護サービス施設」（26.7%）などが上げられている。

高齢者福祉サービスで今後拡充すべきこと（複数回答）については、「身近にある小規模な福祉施設の充実」（37.5%）、「特養などの福祉施設の整備」（37.0%）、「ひとり暮らし高齢者などの地域での見守り体制の整備」（30.4%）などの比率が3割を超えている。

(4) 高齢者の社会参加の状況

「近所づきあい」は女性の方が男性に比べて密になっている

社会活動の内容は、「趣味・文化・スポーツ活動」が最多、「不参加」は半数近く

この1年以内に参加した社会活動（複数回答）では、「趣味・文化・スポーツ活動」が最も多く30.3%を占め、次いで「地域行事（祭など）」が16.3%と続いている。一方、「参加したものはなし」も42.0%と半数近くに達している。

参加時期は「退職してから」が最多

社会活動への参加時期は「退職してから」が23.5%と最も多く、次いで「子どもが自立してから」が19.5%と続いている。

参加のきっかけは、「個人の意志で」、「友人・仲間のすすめ」

社会活動への参加のきっかけ（複数回答）は、「個人の意志で」が41.2%、「友人・仲間のすすめ」が34.8%、「自治会、町内会の呼びかけ」が28.6%と続いている。

参加してよかったと思うことは、「新しい友人ができた」、「生活に充実感ができた」

社会活動に参加してよかったと思うこと（複数回答）は、「新しい友人ができた」が53.2%と

最も多く、次いで「生活に充実感ができた」が44.8%となっている。

社会参加に必要な条件は、「一緒に活動する仲間がいること」が最多

社会参加に必要な条件(複数回答)については、「一緒に活動する仲間がいること」が41.5%、次いで「活動時間や期間にあまり拘束がないこと」が32.0%、「活動場所が家の近くにあること」が25.8%と続いている。

(5) ボランティア団体・NPO団体活動

ボランティア活動を広げていくためには、「団体活動の内容をより多くの人にお知らせすること」が重要

地域のためのボランティア活動を盛んにするために必要なこと(複数回答)は、「団体活動の内容をより多くの人にお知らせすること」が49.5%と半数近くを占めている。

団体の8割強が高齢者の参加を望んでいる

団体活動へ的高齢者の参加については、「すでに参加してもらっている」が56.1%を占め、「積極的に参加してほしい」は24.9%となっている。その一方で、「参加してもらうのは難しい」は14.9%となっている。

そのうち、高齢者に最も期待することについては、「経験を生かした専門的な知識、活動」が52.5%、「退職などで参加できる時間の長さを活かした積極的な活動」が29.1%と多くなっている。

団体活動の今後の展開は、「活動をさらに拡大したい」が最多

団体活動の今後の展開については、「活動をさらに拡大したい」が59.3%、「現状のままでいいと考えている」が19.0%、「現在の活動が維持できるかを心配している」が13.1%となっている。

4 報告書の作成について

(1) 報告書 A4版 252ページ 1,000部作成

(2) 概要版 A4版 34ページ 3,000部作成

(3) 閲覧場所 市役所,各区役所・支所,各図書館等

京都市高齡社会対策実態調査報告書

平成17年度実施

(概要版)

平成18年9月

京都市高齡社会対策実態調査研究会

ま え が き

我が国では、世界にも例を見ない急激な速さで少子高齢化が進展しており、高齢者の皆様お一人お一人が、社会の担い手の一員として、これまで培ってこられた豊富な御経験や知識を存分に活かされ、その人らしい充実した生活を送ることができる豊かで活力ある社会を構築していくことが求められています。

このような中、本市におきましては、高齢者施策を総合的に推進するため、「第3期京都市民長寿すこやかプラン（平成18年度～20年度）」を策定し、介護保険事業の適正かつ円滑な運営や介護予防の充実をはじめ、介護する御家族への支援、高齢者の皆様が住みなれた地域や家庭で健やかに暮らせる生活環境づくりなど、高齢者保健福祉施策の充実に向けて積極的に取り組んでおります。

それらの取組の一つとして、高齢者の生活実態を踏まえ、高齢社会対策を着実に推進していくため、本市では、昭和56年から「京都市高齢社会対策実態調査」を実施しており、この度、平成12年度以来5年ぶりとなる「高齢者生活実態調査」とともに、地域で高齢者をサポートしていく上で重要な役割を果たしている団体についての「ボランティア団体・NPO団体調査」を併せて実施し、これを1冊にまとめ、「京都市高齢社会対策実態調査報告書」を作成いたしました。

この調査では、高齢者の世帯構成、所得や日常生活の状況、健康状態、社会参加や生きがいの問題など、様々な角度からの高齢者生活実態や、ボランティア団体・NPO団体への高齢者の参加の状況などについて分析を行っております。

この報告書は、本市における今後の施策展開の基礎資料となるものですが、関係機関、団体等をはじめ市民の皆様にも広く御活用いただき、より良い高齢社会を築いていくための一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、この調査の実施に御尽力いただきました佛教大学の浜岡政好教授をはじめとする研究会の委員の皆様にも厚くお礼を申し上げますとともに、実施に当たり、御協力をいただきました多くの市民の皆様にも、心から感謝申し上げます。

平成18年9月

京 都 市

「京都市高齢社会対策実態調査」(概要版)目次

・ 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査内容	1
3. 研究会の体制	2
・ 調査結果の主な特色	3
1. 高齢者の世帯の状況	3
2. 高齢者の住居	3
3. 高齢者の社会参加の状況	3
4. ボランティア団体・NPO 団体活動	4
5. 高齢者福祉サービス等へのニーズ	4
・ 高齢者生活実態調査結果の概要	5
1. 調査対象者の基本属性	5
2. 健康状態	5
3. 子どもの有無と同居意向	6
4. 仕事の有無と働いている理由	6
5. 家計	7
6. 近所づきあい	7
7. 住まい	8
8. 今の地域(中学校区の範囲程度)での住み心地	8
9. 今の生活で困っていること	9
10. 今の地域(中学校区の範囲程度)で必要と感ずること	9
11. 知りたいけれども分かりにくい情報	9
12. 興味や関心のある社会問題	10
13. 社会参加活動について	11
14. この1年間に参加したことのある社会活動	11
15. この1年間に最も力を入れて参加した社会活動	11

16．最も力を入れて参加した社会活動への参加頻度	12
17．最も力を入れて参加した社会活動への参加時期	12
18．最も力を入れて参加した社会活動に参加したきっかけ	12
19．最も力を入れて参加した社会活動に参加してよかったと思うこと	13
20．この1年間で社会活動に参加しなかった理由	13
21．社会活動への今後の参加意向	13
22．今後、参加したいと思う社会活動の内容	14
23．社会活動に参加する際の条件	14
24．地域のボランティア活動を盛んにするために必要なこと	14
25．国や自治体の高齢者福祉サービスで拡充すべきこと	15
・ ボランティア団体・NPO 団体調査の概要	16
1．団体設立の経過年数	16
2．団体の全構成員数及び主に活動している構成員	16
3．団体構成員の男女比率，年齢構成	16
4．団体の設立の動機	17
5．現在の主な活動分野	17
6．活動していて，団体としてよかったこと	18
7．団体活動に際しての相談相手	18
8．団体活動への高齢者の参加について	18
9．高齢者の参加が難しい理由	19
10．高齢者の参加に最も期待すること	19
11．団体が抱えている課題	19
12．団体活動の今後の展開について	20
13．住民相互の支え合いサービスに必要なこと	20
・ 資料編（調査票と単純集計結果）	21
京都市高齢者生活実態調査票	21
ボランティア団体・NPO 団体調査票	29

．調査の概要

1．調査の目的

本市では、総合的な高齢社会対策に取り組むため、昭和55年度から5年毎に、60歳以上の市民を対象とした「高齢者生活実態調査」を、平成2年度から10年毎に、60歳未満の市民を対象とした「高齢者問題に関する市民意識調査」を実施している。平成17年度は5年毎に行う「高齢者生活実態調査」を実施した。本調査は、高齢者の就労・所得、保健・医療、住宅・住環境、社会参加、福祉等、広範囲にわたる高齢者の生活実態と意識を明らかにし、今後の高齢社会対策を推進するための基礎資料とするものである。

なお、今回の高齢者生活実態調査は、平成17年2月の京都市社会福祉審議会の「京都市における今後の福祉施策のあり方（答申）」を踏まえ、超高齢社会における「共助」としての地域福祉活動のあり方を検討することを中心テーマとした。

また、高齢者等の社会参加の場としても機能している「ボランティア団体・NPO団体」に対する実態調査も併せて実施した。

2．調査内容

(1) 高齢者生活実態調査

ア．調査対象者

京都市内に在住する60歳以上の市民のうち、無作為抽出による5,000人

イ．調査内容

基本属性、子どもとの同居の状況、本人の家庭の中での役割、仕事・就労・収入、近所づきあい、住宅・住環境、生活上困っていること・相談相手、知りたい情報、関心のある社会問題、家庭にある生活安全機器・情報機器、交友関係、参加している社会活動、社会活動への参加意向、今後拡充すべき高齢者福祉サービス、自由記述

ウ．調査実施期間

- ・ 基準日：平成17年9月1日
- ・ 調査実施期間：平成17年9月8日～9月22日

エ．調査方法

- ・ 調査対象者名簿の作成
調査対象者名簿は、平成17年9月1日現在の住民基本台帳登録者及び外国人登録者の中から無作為に抽出した。
- ・ 調査方法
調査票は無記名とし、郵送配布、郵送回収方法とした。

オ．調査方法

- ・ 配布数：5,000人、有効配布数：4,953人
- ・ 有効回収数：3,633人、有効回収率：73.3%

(2) ボランティア団体・NPO 団体調査

ア．調査対象者

京都市内で活動しているボランティア団体及び NPO 団体の中で、高齢者の社会参加に関わると考えられる団体 412 団体。

イ．調査内容

団体属性， 団体構成員の状況， 団体の設立動機・年間の活動予算， 団体の活動分野， 団体活動のサービス対象者， 団体活動のメリット， 団体活動を展開する上での相談相手， 団体活動への高齢者の参加についての考え方， 多世代・他団体との連携について， 団体活動に際しての課題， 団体活動の今後の展開方針， 市民活動の促進方法， 高齢者に対する活動の考え方， 住民相互の助け合いの考え方

ウ．調査実施期間

- ・基準日：平成 17 年 9 月 1 日
- ・調査実施期間：平成 17 年 9 月 8 日～ 9 月 22 日

エ．調査方法

- ・調査対象者名簿の作成
ひと・まち交流館に登録し，インターネットの Web で団体情報を公開している団体の中から，高齢者の社会参加活動に関係していると考えられるボランティア団体・NPO 団体を抽出した。
- ・調査方法
郵送配布，郵送回収方法とした。

オ．調査方法

- ・配布数：412 団体，有効配布数：399 団体
- ・有効回収数：221 団体，有効回収率：55.4%

3. 研究会の体制

(五十音順・敬称略)

氏名	所属団体・役職等
上村 智	(社)京都市老人クラブ連合会事務局長
大谷 善一	(福)京都市社会福祉協議会 経営室室長
岡山 佳代子	京都市東山区役所福祉部長
加藤 博史	龍谷大学短期大学部教授
源野 勝敏	京都市老人福祉施設協議会副会長
浜岡 政好	佛教大学社会学部教授
松本 重雄	京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課長

(所属団体・役職は平成 18 年 3 月現在)

調査結果の主な特色

1. 高齢者の世帯の状況

高齢者だけの世帯が増加

「世帯構成」では、前回調査と比べて「単身世帯（ひとり暮らし）」（16.2% 17.0%）や「一世代（夫婦のみ）」（37.4% 38.9%）など的高齢者だけの世帯が増加する傾向がみられる。

子どもとの同居は近居志向

別居している子どもとの「同居意向」では、「できれば同居したいと思う」の比率が低下傾向（14.8% 10.3%）にあり、その分、「同居したいと思わないが、近くに住んで欲しい」の比率が増加（42.7% 53.6%）し、近居志向が強まっている状況がうかがえる。

2. 高齢者の住居

高齢者の7割強が持ち家

居住形態では、「持ち家（一戸建て）」が63.3%を占めている。その他の「持ち家（マンションなど）」を加えると76.1%が持ち家となっている。

住み替えるなら、「京都市内のまちなかで便利なところ」

住み替えを考えているかどうかについては、「考えている」人は12.3%と1割程度であり、その住み替えを考えている地域は、「京都市内のまちなかで便利なところ」が43.8%と多くなっている。

3. 高齢者の社会参加の状況

「近所づきあい」は女性の方が男性に比べて密になっている

社会活動の内容は、「趣味・文化・スポーツ活動」が最多、「不参加」は半数近く

この1年以内に参加した社会活動（複数回答）では、「趣味・文化・スポーツ活動」が最も多く30.3%を占め、次いで「地域行事（祭など）」が16.3%と続いている。一方、「参加したものはなし」も42.0%と半数近くに達している。

参加時期は「退職してから」が最多

社会活動への参加時期は「退職してから」が23.5%と最も多く、次いで「子どもが自立してから」が19.5%と続いている。

参加のきっかけは、「個人の意志で」、「友人・仲間のすすめ」

社会活動への参加のきっかけ（複数回答）は、「個人の意志で」が41.2%、「友人・仲間のすすめ」が34.8%、「自治会、町内会の呼びかけ」が28.6%と続いている。

参加のメリットは、「新しい友人ができた」、「生活に充実感ができた」

社会活動に参加してよかったと思うこと(複数回答)は、「新しい友人ができた」が53.2%と最も多く、次いで「生活に充実感ができた」が44.8%となっている。

社会参加に必要な条件は、「一緒に活動する仲間がいること」が最多

社会参加に必要な条件(複数回答)については、「一緒に活動する仲間がいること」が41.5%、次いで「活動時間や期間にあまり拘束がないこと」が32.0%、「活動場所が家の近くにあること」が25.8%と続いている。

4. ボランティア団体・NPO団体活動

ボランティア活動を広げていくためには、「団体活動の内容をより多くの人にお知らせること」が重要

地域のためのボランティア活動を盛んにするために必要なこと(複数回答)は、「団体活動の内容をより多くの人にお知らせること」が49.5%と半数近くを占めている。

団体の8割強が高齢者の参加を望んでいる

団体活動への高齢者の参加については、「すでに参加してもらっている」が56.1%を占め、「積極的に参加してほしい」は24.9%となっている。その一方で、「参加してもらうのは難しい」は14.9%となっている。

そのうち、高齢者に最も期待することについては、「経験を生かした専門的な知識、活動」が52.5%、「退職などで参加できる時間の長さを活かした積極的な活動」が29.1%と多くなっている。

団体活動の今後の展開は、「活動をさらに拡大したい」が最多

団体活動の今後の展開については、「活動をさらに拡大したい」が59.3%、「現状のままでいいと考えている」が19.0%、「現在の活動が維持できるかを心配している」が13.1%となっている。

5. 高齢者福祉サービス等へのニーズ

高齢者福祉サービス等への市民のニーズとしては、身近なところでのサービスの充実や、地域内での支え合いの充実が多い

今の地域で必要なこと(複数回答)については、「地域内の身近な医療サービス」(29.5%)、「近所での助け合い意識・協力意識」(27.6%)、「介護サービス施設」(26.7%)などが上げられている。

高齢者福祉サービスで今後拡充すべきこと(複数回答)については、「身近にある小規模な福祉施設の充実」(37.5%)、「特養などの福祉施設の整備」(37.0%)、「ひとり暮らし高齢者などの地域での見守り体制の整備」(30.4%)などの比率が3割を超えている。

・高齡者生活実態調査結果の概要

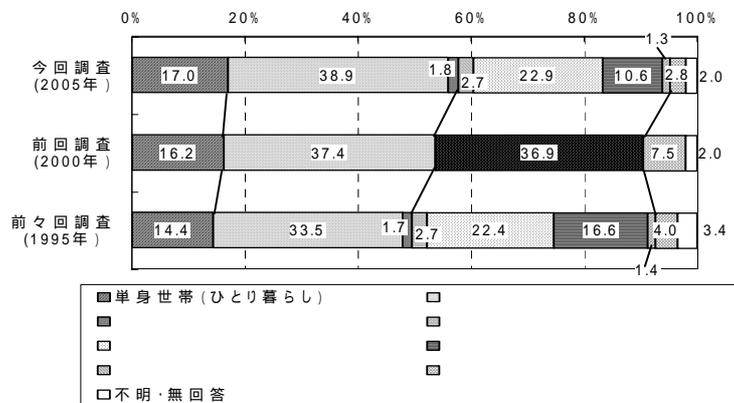
前回調査とは、5年前の2000年調査のことを指す。

1. 調査対象者の基本属性

「性」、「年齢」では、前回調査と比べて大きな変化はみられない。

「世帯構成」では、前回調査と比べて「単身世帯（ひとり暮らし）」（16.2% 17.0%）や「一世代（夫婦のみ）」（37.4% 38.9%）などの高齡者だけの世帯が増加する傾向がみられる。

問4 あなたのお宅の世帯構成はどれにあたりますか。（は1つ）

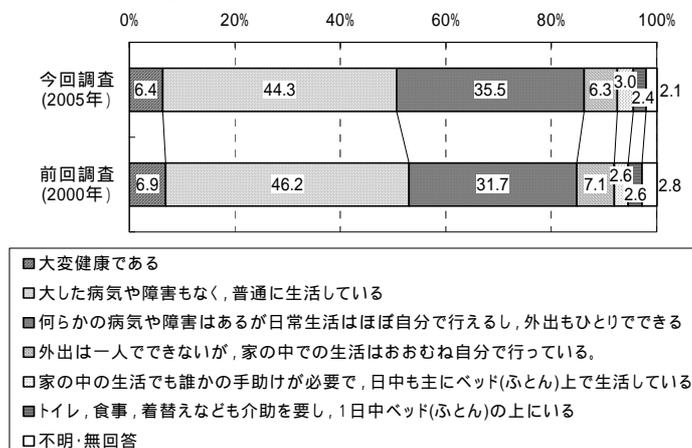


ただし、前回調査は「単身世帯（ひとり暮らし）」、「一世代（夫婦のみ）」、「二世代（本人と子供）」、「三世代（本人と子供と孫・本人と親と子供）同居」、「その他」の4区分で調査

2. 健康状態

「大した病気や障害もなく、普通に暮らしている」（44.3%）や「何らかの病気や障害はあるが日常生活はほぼ自分でできるし、外出もひとりのできる」（35.5%）の比率が高くなっているが、前回調査と比べると、前者の比率が少し低下（46.2% 44.3%）し、後者の比率が増加傾向（31.7% 35.5%）にある。

問5 あなたの健康状態についていちばん近いものはどれですか。

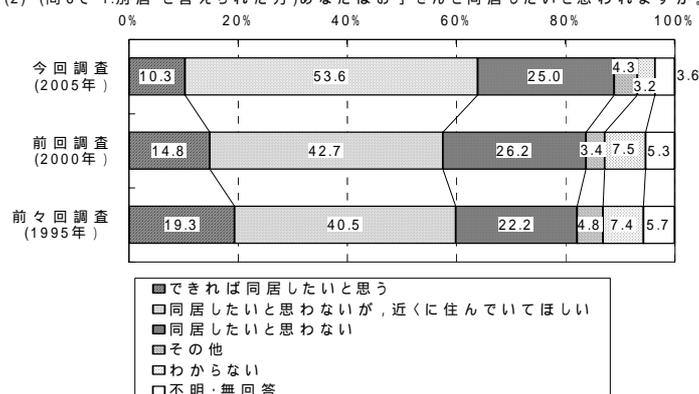


3. 子どもの有無と同居意向

前回調査と比較して「子どもがいる」人の比率が若干増加（83.2% 86.5%）している。

別居している子どもとの「同居意向」では、「できれば同居したいと思う」の比率が低下傾向（14.8% 10.3%）にあり，その分，「同居したいと思わないが，近くに住んで欲しい」の比率が増加（42.7% 53.6%）し，近居指向が強まっている状況がうかがえる。

副問(2) (問6で1.別居と答えられた方)あなたはお子さんと同居したいと思われますか。



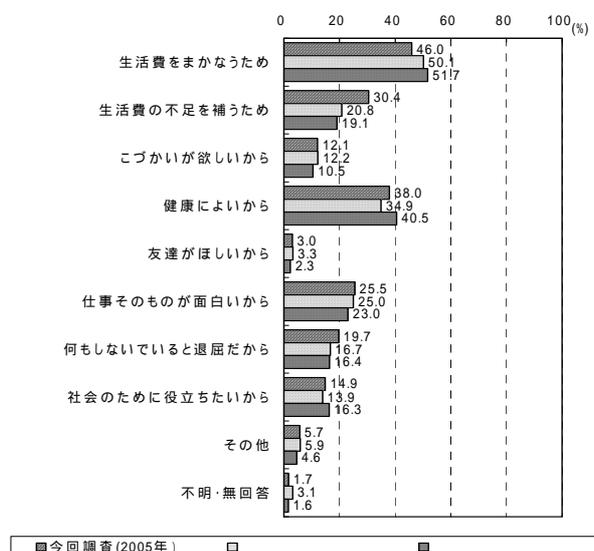
4. 仕事の有無と働いている理由

収入になる仕事の有無では、「仕事をしている」人の比率は34.4%となっている。前回調査との比較では変化はみられない。

「就業形態」では、「常用勤労者」の比率が減少（16.0% 14.1%）し，「臨時・日雇い・パート」の比率が増加（17.1% 22.5%）する傾向にある。

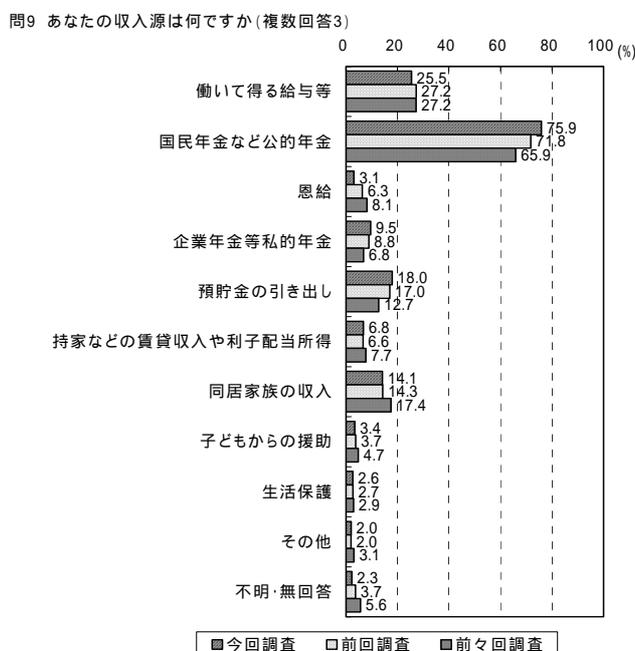
「働いている理由」については、「生活費の不足を補うため」の比率が上昇(20.8% 30.4%)し，「生活費をまかなうため」の比率が低下する傾向（50.1% 46.0%）にある。

副問1(2) (問8で1.仕事をしているとお答えの方)現在働いている理由は何ですか。(複数回答3)



5. 家計

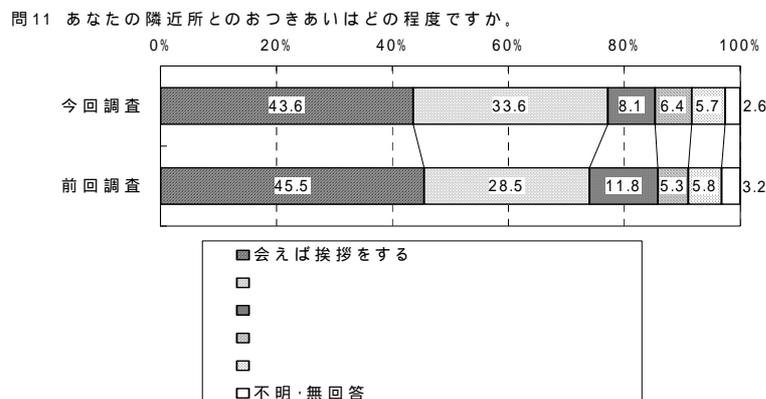
収入源については、「国民年金などの公的年金」が75.9%を占め最も多くなっている。前回調査と比較すると「国民年金などの公的年金」が増加傾向(71.8% 75.9%)にある。



年間の総収入をみると、「100～200万円」の層が最も多く23.5%を占めている。前回調査と比較すると「50万円未満」の層が減少(11.1% 8.9%)し、「50～100万円未満」、「100～200万円未満」、「200～300万円未満」の各層が微増している。

6. 近所づきあい

近所づきあいについては、「会えば挨拶をする」が43.6%と最も多くなっている。前回調査と比較して、「会えば挨拶をする」の比率が少し減少(45.5% 43.6%)し、「たまに立ち話をする」の比率が増加(28.5% 33.6%)している。

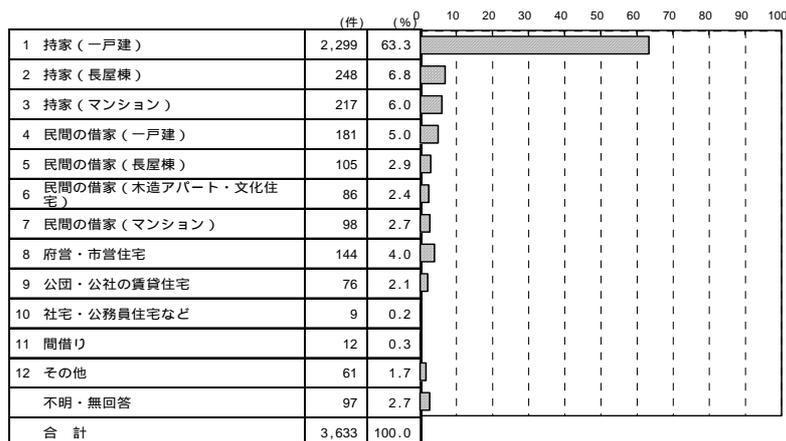


女性は男性に比べ「近所づきあい」は密になっている。

7. 住まい

居住形態では、「持ち家（一戸建て）」が 63.3%を占めている。その他の「持ち家（マンションなど）」を加えると 76.1%が持ち家となっている。

問 13 あなたの住まいは次のどれにあたりますか。（ は1つ）



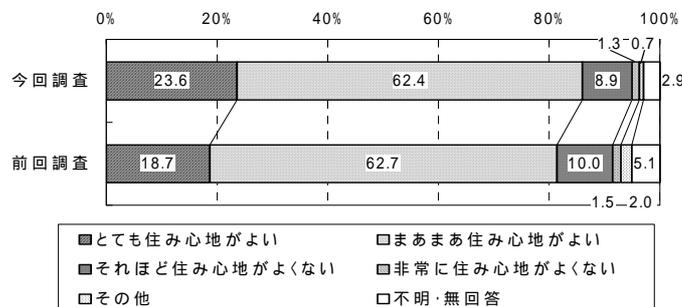
前回調査と比較して、居住形態に大きな変化はみられない。

8. 今の地域（中学校区の範囲程度）での住み心地

中学校区程度の範囲内での住み心地では、「とても住み心地がよい」が 23.6%、「まあまあ住み心地がよい」が 62.4%となっており、合わせて 86.0%の人が「住み心地がよい」という評価をしている。

前回調査と比較して、「とても住み心地がよい」の比率が増加(18.7% 23.6%)している。

問15 あなたにとって、あなたが今、お住まいの地域(中学校区の範囲内)の住み心地はどうですか。

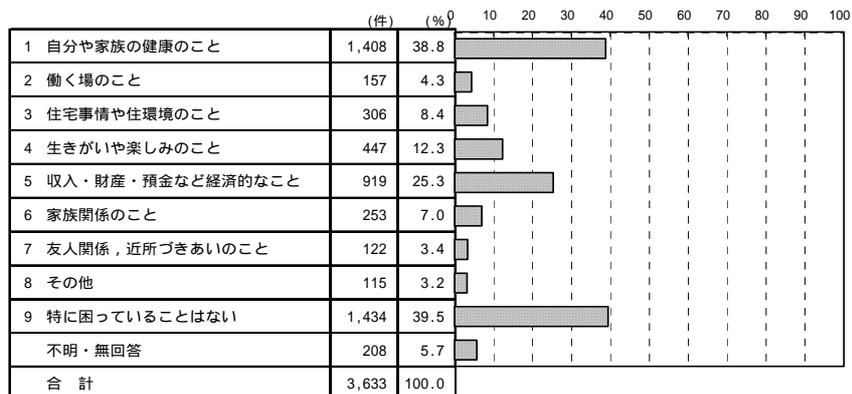


住み替えを考えているかどうかについては、「考えている」人は 12.3%と 1 割程度であり、「考えていない」人が 73.7%と多数を占めている。

9. 今の生活で困っていること

今の生活で困っていること(複数回答)については、「特に困っていることはない」が39.5%を占めているが、「自分や家族の健康のこと」(38.8%)や「収入・財産・預金など経済的なこと」(25.3%)も一定の比率を占めている。

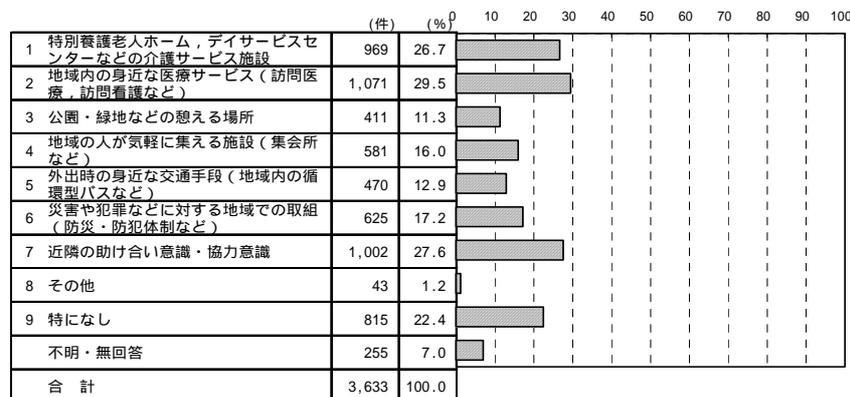
問 17 あなたは今の生活で何か困っていることがありますか。(おもなもの3つ以内に)



10. 今の地域(中学校区の範囲程度)で必要と感ずること

今の地域で必要なこと(複数回答)については、「地域内の身近な医療サービス」(29.5%)、「近所での助け合い意識・協力意識」(27.6%)、「介護サービス施設」(26.7%)などが上げられている。

問 19 あなたは、今の地域(中学校区の範囲程度)で生活していく上で、今後、必要とお感じになっていることは何ですか。(おもなもの3つ以内に)

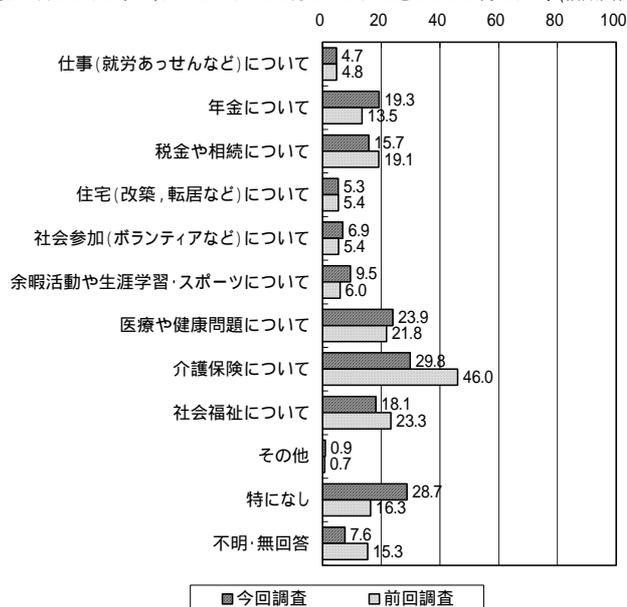


11. 知りたいけれども分かりにくい情報

知りたいけれども分かりにくい情報(複数回答)については、「介護保険」(29.8%)、「医療や健康問題」(23.9%)、「年金」(19.3%)、「社会福祉」(18.1%)となっている。

前回調査と比較すると、「介護保険」の比率が大きく低下(46.0% 29.8%)しているが、これは介護保険制度が始まってから一定年数が経過しており、介護保険制度の認知度が高まってきているためと考えられる。

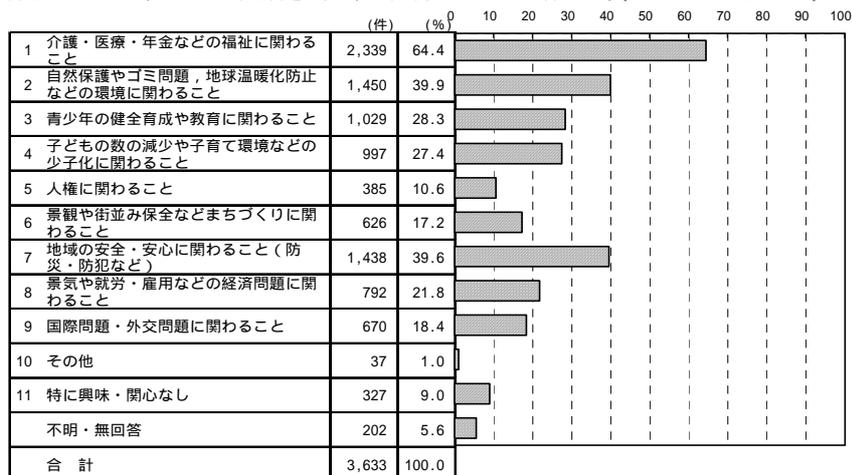
問20 次にあげる中で、知りたいけれども分かりにくいと感じるのは何ですか。(複数回答3)



12. 興味や関心のある社会問題

興味や関心のある社会問題(複数回答)では、「介護・医療・年金など福祉に関わること」が64.4%を占め最も高く、次いで「自然保護, ゴミ問題などの環境問題」(39.9%), 「地域の安全・安心に関わること」(39.6%)と続いている。

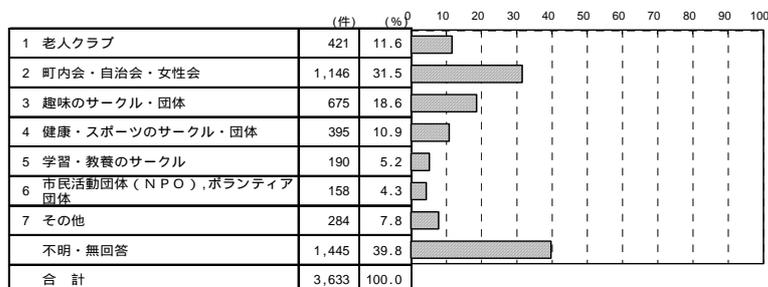
問21 あなたは、次にあげる社会問題の中で、興味や関心のあるものは何ですか。(あてはまるもの全てに)



13. 社会参加活動について

現在、参加している団体や組織（複数回答）は、「町内会・自治会・女性会」が31.5%と最も高く、次いで「趣味のサークル・団体」が18.6%と続いている。

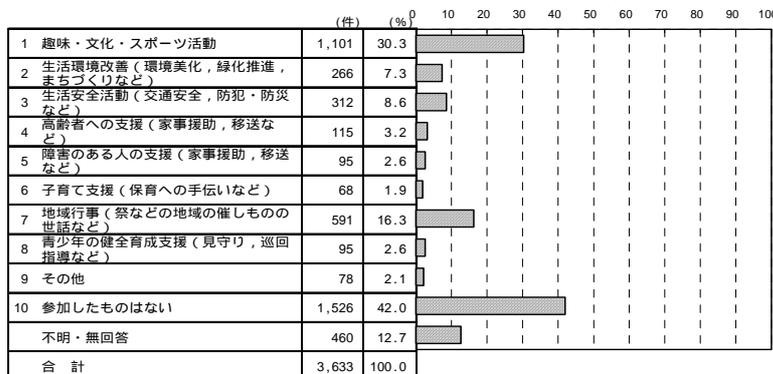
問 25 あなたが、現在参加している団体や組織はありますか。（あてはまるもの全てに）



14. この1年間に参加したことがある社会活動

この1年以内に参加した社会活動（複数回答）では、「趣味・文化・スポーツ活動」が最も多く30.3%を占め、次いで「地域行事（祭など）」が16.3%と続いている。一方、「参加したものはなし」も42.0%と半数近くに達している。

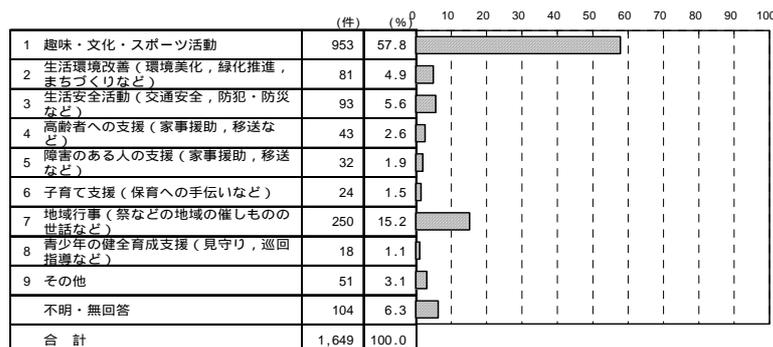
問 26 あなたは、この1年間に、個人または友人あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動に参加したことがありますか。参加した活動を全てお答えください。（あてはまるもの全てに）



15. この1年間に最も力を入れて参加した社会活動

この1年以内に最も力を入れて取り組んだ社会活動は「趣味・文化・スポーツ活動」が57.8%と最も多くなっている。

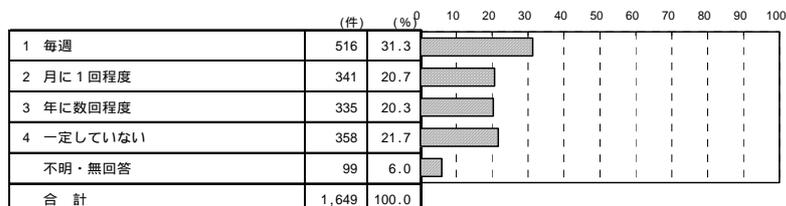
副問1（問26で「1」～「9」と答えた方）（1）あなたが、最も力を入れて参加した活動はどれですか。（は1つ）



16. 最も力を入れて参加した社会活動への参加頻度

参加頻度は、「毎週」が最も高く（31.3%）、「一定してない」（21.7%）、「月に1回程度」（20.7%）、「年に数回」（20.3%）がほぼ同じ比率で、多様な参加頻度となっている。

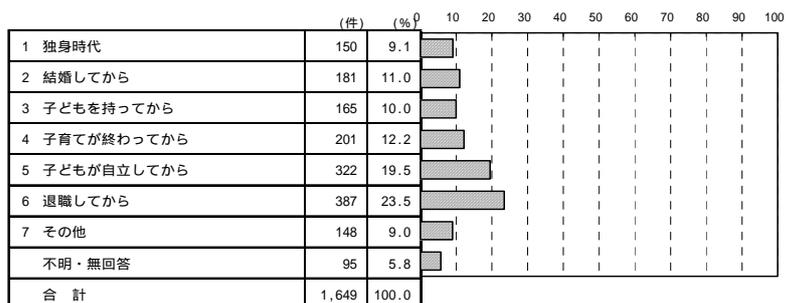
副問1（問26で「1」～「9」と答えた方）（2）あなたは、その最も力を入れた活動にどのくらい参加していますか。（は1つ）



17. 最も力を入れて参加した社会活動への参加時期

社会活動への参加時期は「退職してから」が23.5%と最も多く、次いで「子どもが自立してから」が19.5%と続いている。

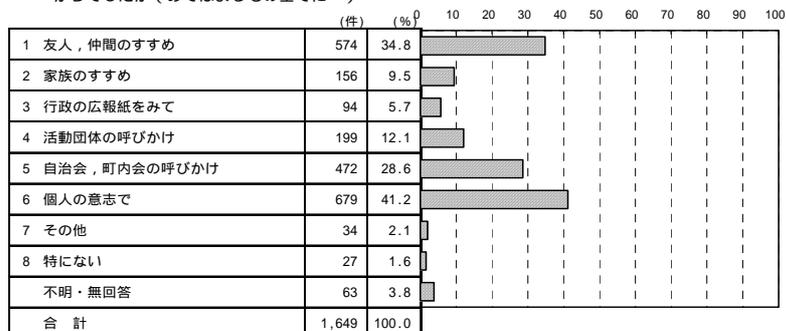
副問1（問26で「1」～「9」と答えた方）（3）あなたが、その最も力を入れた活動に初めて参加した時期は、あなたの生活の上では、どの段階でしたか。（は1つ）



18. 最も力を入れて参加した社会活動に参加したきっかけ

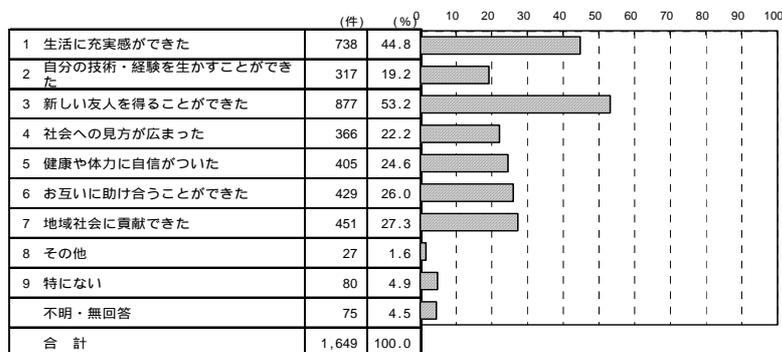
社会活動への参加のきっかけ（複数回答）は、「個人の意志で」が41.2%、「友人・仲間のすすめ」が34.8%、「自治会、町内会の呼びかけ」が28.6%と続いている。

副問1（問26で「1」～「9」と答えた方）（4）あなたが、その最も力を入れた活動に参加したきっかけは、どのようなことからでしたか（あてはまるもの全てに）



19. 最も力を入れて参加した社会活動に参加してよかったと思うこと
 社会活動に参加してよかったと思うこと（複数回答）は、「新しい友人ができた」が53.2%と最も多く、次いで「生活に充実感ができた」が44.8%となっている。

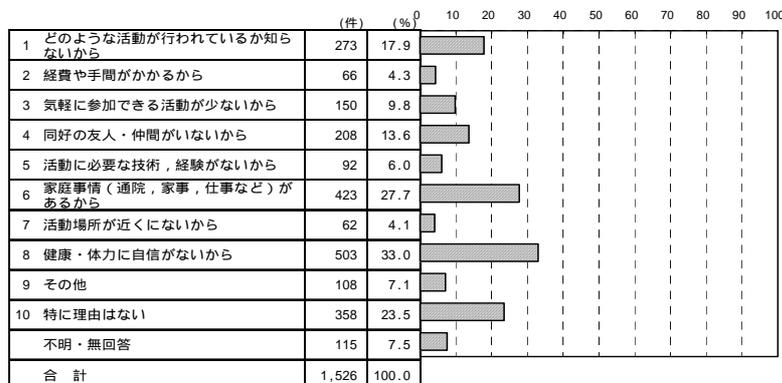
副問1（問26で「1」～「9」と答えた方）（5）あなたが、その最も力を入れた活動に参加してよかったと思うことはどのようなことですか。（あてはまるもの全てに）



20. この1年間で社会活動に参加しなかった理由

社会活動に参加していない人の理由（複数回答）については、「健康・体力に自信がないから」が33.0%、「家庭事情があるから」が27.7%と続いている。

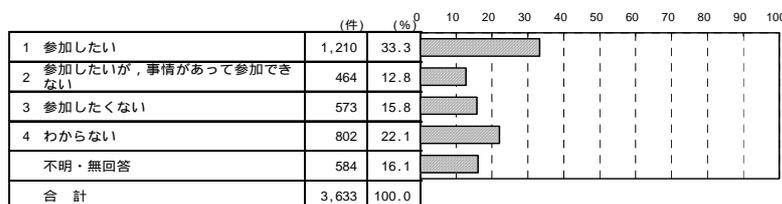
副問2（問26で10と答えた方）あなたがこの1年間にこれらの活動に参加しなかったのはどうしてですか。（あてはまるもの全てに）



21. 社会活動への今後の参加意向

社会参加への今後の参加意向は、「参加したい」が33.3%と最も多く、「参加したいが事情があって参加できない」は12.8%となっている。一方、「参加したくない」も15.8%を占めている。

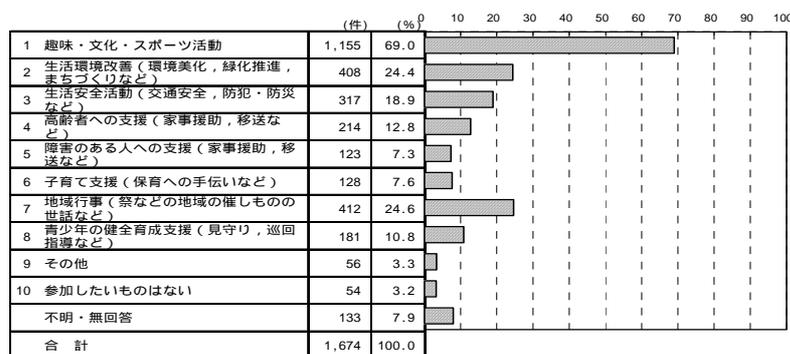
問27 あなたは、グループや団体で自主的に行われている活動（地域での活動）に、今後とも（又は今後は）参加したいと思いますか。（は1つ）



22. 今後、参加したいと思う社会活動の内容

現在、参加している社会活動も含めて、今後、参加したいと思われる社会活動(複数回答)については、「趣味・文化・スポーツ活動」が69.0%と最も多く、次いで「地域行事」(24.6%)、「生活環境改善」(24.4%)と続いている。

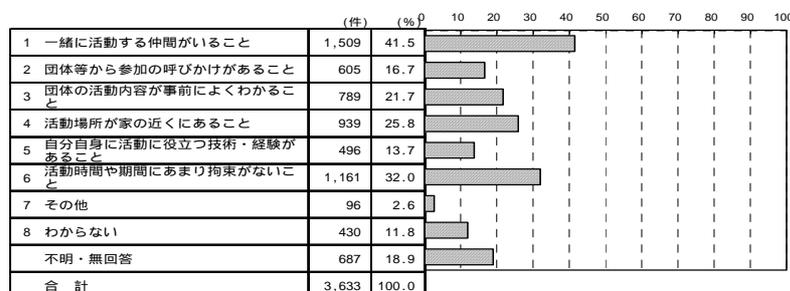
副問 (問27で、「1」「2」を選んだ方) 現在参加している活動も含めて、今後、参加したいと思われる活動を選んでください。(あてはまるもの全てに)



23. 社会活動に参加する際の条件

社会参加に必要な条件(複数回答)については、「一緒に活動する仲間がいること」が41.5%、次いで「活動時間や期間にあまり拘束がないこと」が32.0%、「活動場所が家の近くにあること」が25.8%と続いている。

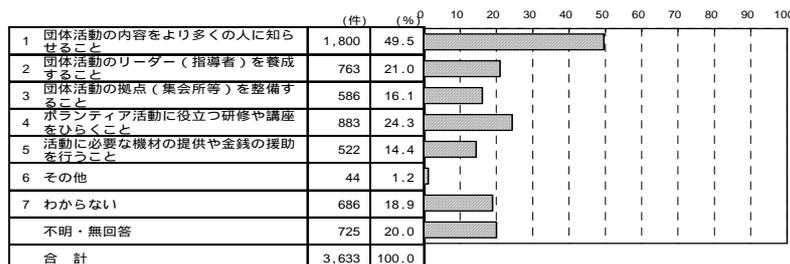
問28 あなたは、社会活動に参加する際の条件としては何が必要だと思いますか。(主なもの3つ以内に)



24. 地域のボランティア活動を盛んにするために必要なこと

地域のためのボランティア活動を盛んにするために必要なこと(複数回答)は、「団体活動の内容をより多くの人にお知らせすること」が49.5%と半数近くを占めている。

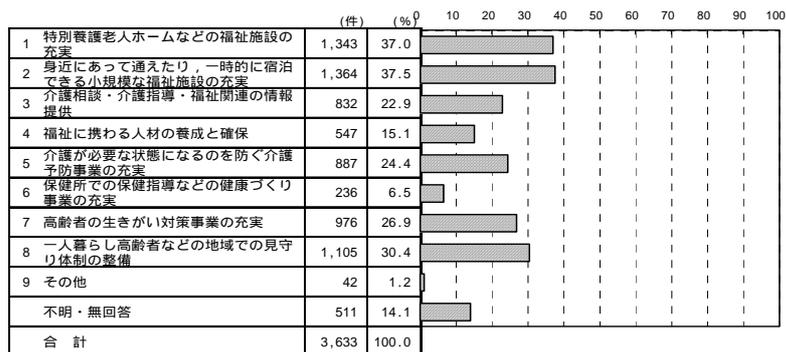
問29 地域のためのボランティア活動を盛んにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つ以内に)



25. 国や自治体の高齢者福祉サービスで拡充すべきこと

高齢者福祉サービスで今後拡充すべきこと(複数回答)については、「身近にある小規模な福祉施設の充実」(37.5%)、「特養などの福祉施設の整備」(37.0%)、「ひとり暮らし高齢者などの地域での見守り体制の整備」(30.4%)などの比率が3割を超えている。

問 30 あなたは、国や自治体の高齢者福祉サービスについて、今後どのようなことを拡充すべきだと思いますか。
(おもなものを3つ以内に)

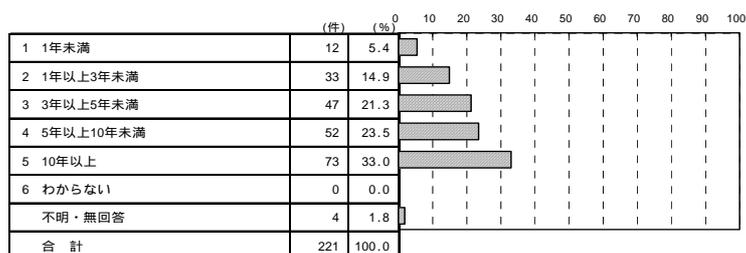


1. ボランティア団体・NPO 団体調査の概要

1. 団体設立の経過年数

団体を設立してからの経過年数は、「10年以上」が33.0%、「5年以上10年未満」が23.5%などとなっており、「10年以上」を経過している団体が全体の1/3を占めている。

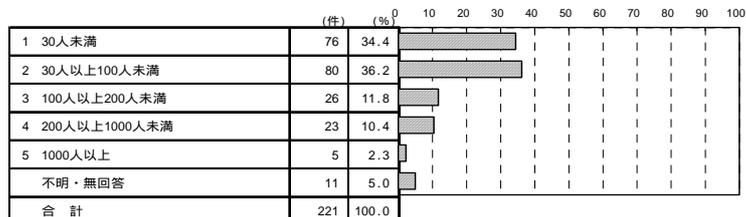
問2 貴団体を設立して、何年経ちますか。(は1つ)



2. 団体の全構成員及び主に活動している構成員

団体を構成するメンバーの数は、「30～100人未満」が36.2%で最も多く、次いで「30人未満」が34.4%を占めている。

問3(A) 貴団体の全構成員(会員)の人数は、どのような状況ですか。



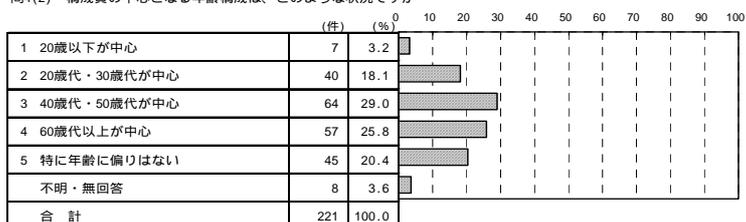
また、日頃、主に活動している構成員数は「30人未満」が67.4%を占め、最も多くなっている。

3. 団体構成員の男女比率、年齢構成

構成員の男女比率については、「女性の方が多い」が45.2%、「男性の方が多い」が31.7%となっており、女性の比率が高い団体が多い。

構成員の年齢構成は、「40・50歳代が中心」が29.0%、「60歳代以上が中心」が25.8%と続いている。

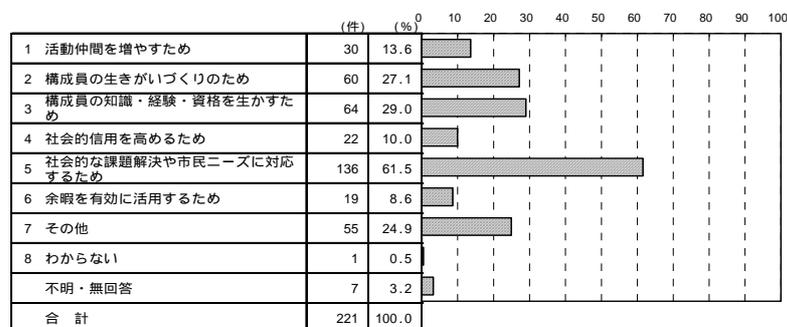
問4(2) 構成員の中心となる年齢構成は、どのような状況ですか



4. 団体の設立の動機

団体設立の動機(複数回答)は、「社会的な課題解決や市民ニーズに対応するため」が61.5%を占めており、これが主な設立の動機となっている。

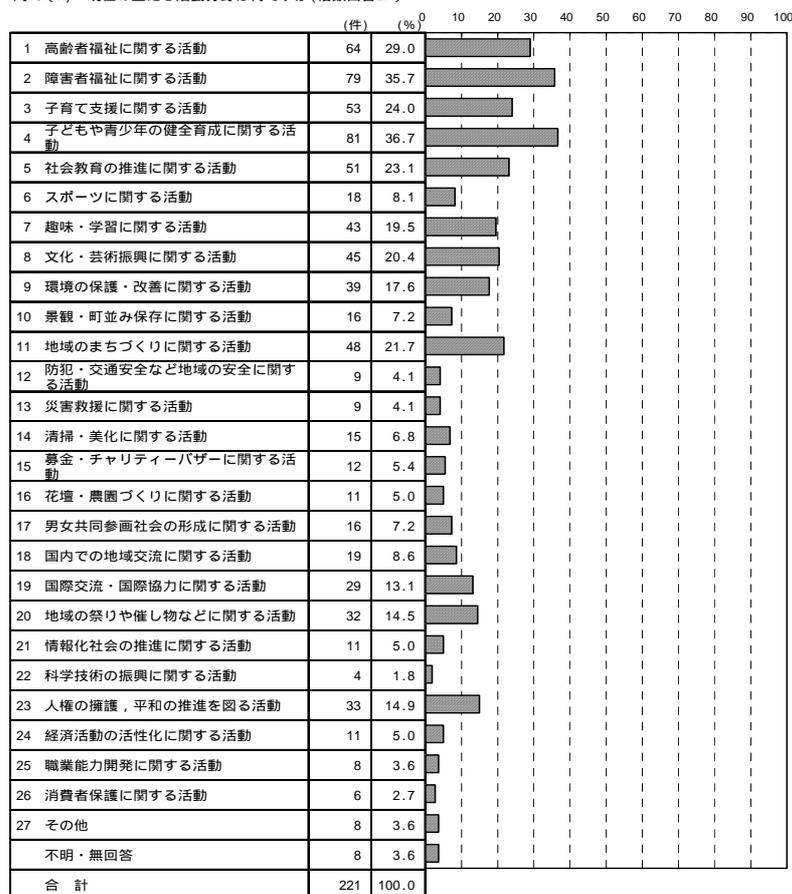
問7 団体設立の動機は何ですか。(は3つ以内)



5. 現在の主な活動分野

活動の多い分野(複数回答)は、「子どもや青少年の健全育成」(36.7%)、「障害者福祉」(35.7%)、「高齢者福祉」(29.0%)の各分野が、いずれも30%前後の比率を占め、中心的な活動分野となっている。

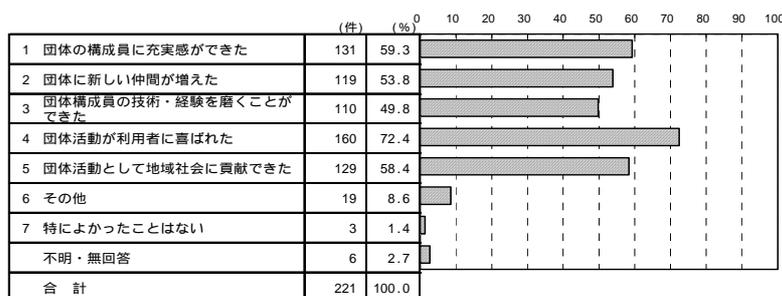
問10(A) 現在の主たる活動分野は何ですか(複数回答27)



6. 活動していて、団体としてよかったこと

団体活動のメリット(複数回答)は、「団体活動が利用者に喜ばれた」(72.4%)、「構成員に充実感ができた」(59.3%)、「地域社会に貢献できた」(58.4%)、「仲間が増えた」(53.8%)、「団体構成員の技術・経験を磨くことができた」(49.8%)と、回答が多岐にわたっている。

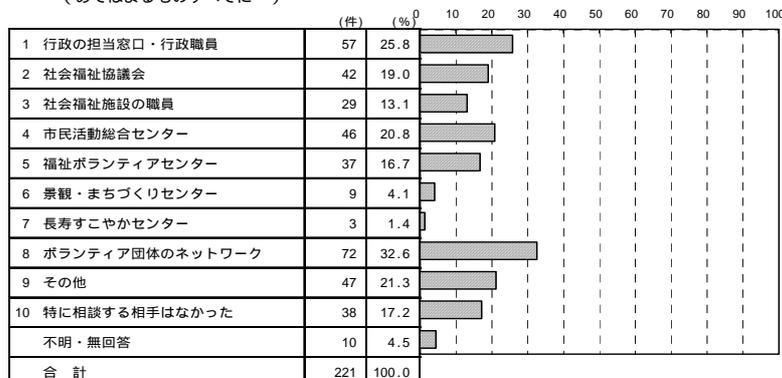
問 15 活動していて、団体としてよかったと思うのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに)



7. 団体活動に際しての相談相手

団体活動の相談相手は、「ボランティア団体のネットワーク」(32.6%)、「行政の担当窓口・行政職員」(25.8%)、「市民活動センター」(20.8%)、「社会福祉協議会」(19.0%)等が多くみられる。

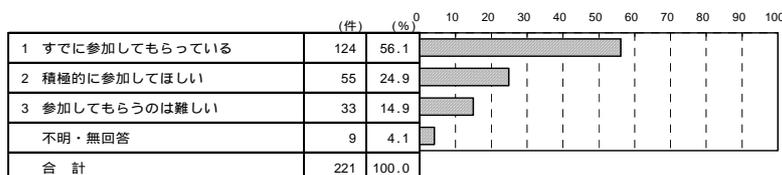
問 16 貴団体のこれまでの活動に際して、困り事やわからないことなどがあつた時、相談できる相手はどのような所でしたか。(あてはまるものすべてに)



8. 団体活動への高齢者の参加について

団体活動への高齢者の参加については、「すでに参加してもらっている」が56.1%を占め、「積極的に参加してほしい」は24.9%となっている。その一方で、「参加してもらうのは難しい」は14.9%となっている。

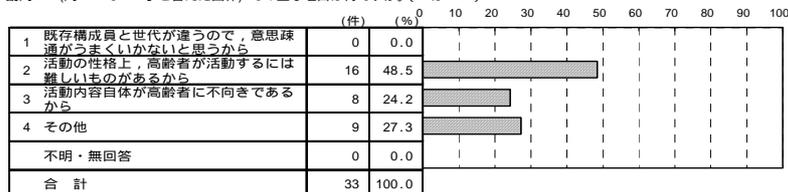
問 17 貴団体への高齢者の参加について、どう考えますか。(は1つ)



9. 高齢者の参加が難しい理由

高齢者の「参加が難しい理由」については、「活動の性格上、高齢者が活動するには難しいものがあるから」が48.5%と最も高くなっている。

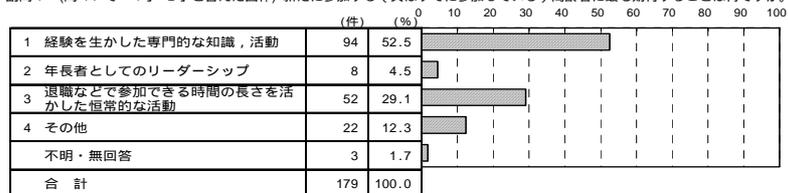
副問2 (問17で「3」と答えた団体) その主な理由は何ですか。(は1つ)



10. 高齢者の参加に最も期待すること

高齢者に最も期待することについては、「経験を生かした専門的な知識、活動」が52.5%、「退職などで参加できる時間の長さを活かした積極的な活動」が29.1%と多くなっている。

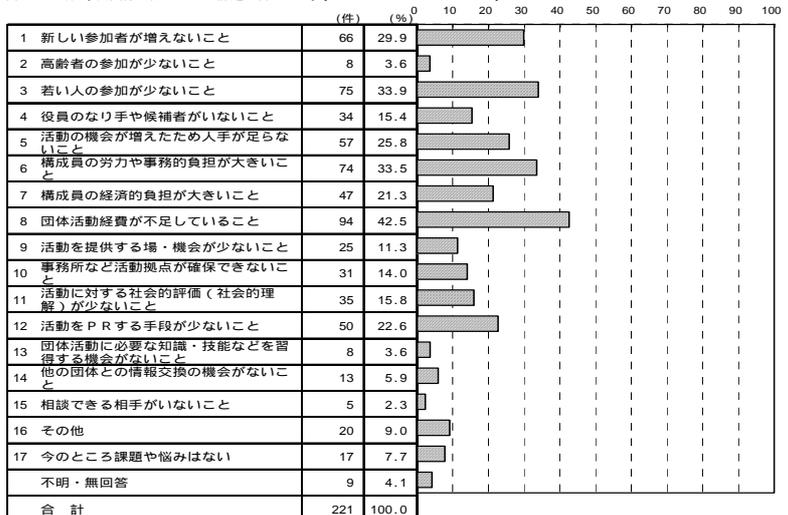
副問1 (問17で「1」「2」と答えた団体) 新たに参加する(又はすでに参加している)高齢者に最も期待することは何ですか。(は1つ)



11. 団体が抱えている課題

団体が抱える課題(複数回答)は回答が多岐に渡っているが、主な課題としては「団体活動経費が不足している」(42.5%)、「若い人の参加が少ない」(33.9%)、「構成員の労力や事務的負担が大きい」(33.5%)、「新しい参加者が増えないこと」(29.9%)、「活動の機会が増えたため人手が足りないこと」(25.8%)が上位5位を占めている。

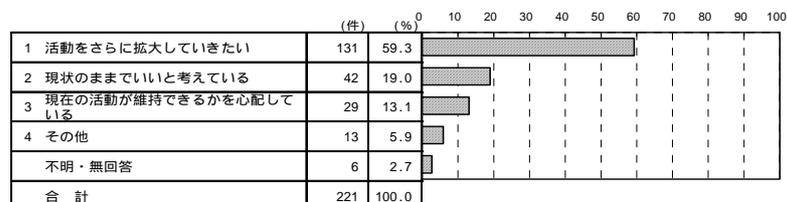
問20 現在、貴団体が抱えている課題は何ですか。(あてはまるものすべてに)



12. 団体活動の今後の展開について

団体活動の今後の展開については、「活動をさらに拡大したい」が 59.3%、「現状のままでいいと考えている」が 19.0%、「現在の活動が維持できるかを心配している」が 13.1%となっている。

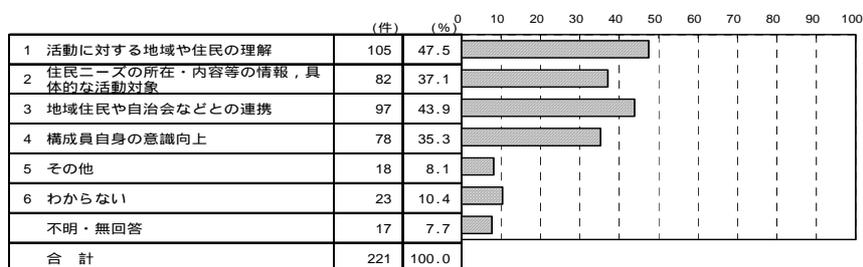
問 21 貴団体の活動の今後の展開について、お教え下さい。(は1つ)



13. 住民相互の支え合いサービスに必要なこと

核家族化や少子高齢化が進む中で、福祉サービス等については、行政サービスだけでなく住民相互の支え合いが重要になる。そのようなサービスの展開に向けて、各団体が必要と思うこと(複数回答)については、「活動に対する地域や住民の理解」(47.5%)、「地域住民や自治会などとの連携」(43.9%)、「住民ニーズの所在・内容等の情報・具体的な活動対象」(37.1%)、「構成員自身の意識向上」(35.3%)などが上げられている。

問 24 今後、貴団体が、こういった住民相互の支え合いに関わるサービスを担うとしたら、どのようなことが必要になると考えますか。(あてはまるものすべてに)



京都市高齢者生活実態調査票

ご協力のお願い

我が国は世界に例を見ない速さで人口の高齢化が進んでおり、約10年後(2015年)には国民の4人に1人が、さらに35年後(2040年)には、3人に1人が65歳以上という長寿社会が到来します。

京都市におきましても、65歳以上の高齢者の割合が、平成17年7月には20.1%と高齢化の進展が著しく、豊かな長寿社会の実現はまさに市政の最重要課題の一つとなっております。

この調査は、昭和55年度から5年ごとを実施しているもので、皆様方が、日頃どのような生活をされ、長寿社会等についてどのような考えをお持ちかをおたずねすることにより、高齢化が進展していくなかで、高齢者の方々が生きがいを持って安心して暮らすことができる長寿社会を実現するための重要な資料とさせていただきます。

調査にご協力いただいた方は、市内にお住まいの60歳以上の方(平成17年9月1日現在)の中から無作為に選ばせていただいた5,000人の方です。

お答えいただいた内容は、統計資料を得る目的のみに使用し、皆様には不利益なことのないように、秘密の保持には万全を期しておりますので、ご協力をお願いいたします。

【記入上のお願い】

・調査票は封筒の宛名の方、**ご本人が記入してください**。ただし身体上の問題や病気等により記入が不可能な場合は、その方の状況がわかる方が代わりにご記入ください。

・お答えは、あてはまる番号に○をつけてください。質問により一つのみの回答していただくものと、複数回答していただくものがあります。質問に従ってお答えください。

記入していただいた調査票は、無記名のまま封筒の返信用封筒に入れ、平成17年9月22日(木)までに返送くださいますようお願いいたします。

平成17年9月

京都市

■この調査に関するお問い合わせ先

京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課 (担当：八代、後藤)

電話 222-3406

V. 資料論 (調査票と集計結果)

最初に、ご本人に代わって、ご家族などが記入される場合だけ、お答えください。
調査対象者のご本人との関係は次のどれにあたりますか。

- 1. 配偶者(妻・夫) (8.0%)
- 2. 娘 (2.9%)
- 3. 息子 (2.6%)
- 4. 姪・婿 (0.9%)
- 5. 親 (0.4%)
- 6. 孫 (0.1%)
- 7. その他の親族 (0.5%)
- 8. その他 () (0.8%)

■最初にあなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたのお住まいの地域に○をつけてください。(○は1つ)

- 1. 北区 (9.2%)
- 2. 上京区 (6.7%)
- 3. 左京区 (11.7%)
- 4. 中京区 (6.8%)
- 5. 東山区 (3.6%)
- 6. 山科区 (9.1%)
- 7. 下京区 (5.3%)
- 8. 南区 (6.2%)
- 9. 右京区 (12.8%)
- 10. 西京区 (8.3%)
- 11. 洛西支所 (0.7%)
- 12. 伏見区 (15.6%)
- 13. 深草支所 (1.1%)
- 14. 醍醐支所 (1.3%)

問2 あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

- 1. 男性 (41.4%)
- 2. 女性 (56.3%)

問3 あなたの年齢はどれにあたりますか。(○は1つ)

- 1. 60歳～64歳 (24.2%)
- 2. 65歳～69歳 (22.0%)
- 3. 70歳～74歳 (21.4%)
- 4. 75歳～79歳 (14.5%)
- 5. 80歳以上 (16.5%)

問4 あなたのお宅の世帯構成はどれにあたりますか。(○は1つ)

- 1. 単身世帯(ひとり暮らし) (17.0%)
- 2. 一世代(夫婦のみ) (38.9%)
- 3. 一世代(兄弟姉妹のみ) (1.8%)
- 4. 二世代同居(あなたと親) (2.7%)
- 5. 二世代同居(あなたと子供) (22.9%)
- 6. 三世代同居(あなたと子供と孫) (10.6%)
- 7. 三世代同居(あなたと親と子供) (1.3%)
- 8. その他() (2.8%)

問5 あなたの健康状態についていちばん近いものはどれですか。(○は1つ)

1. 大変健康である (6.4%)
2. 大した病気や障害もなく、普通に生活している (44.3%)
3. 何らかの病気や障害はあるが日常生活はほぼ自分で行えるし、外出もひとりでできる (35.5%)
4. 何らかの病気や障害などがあるが一人でできないが、家の中での生活はおおむね自分で行っている。 (6.3%)
5. 何らかの病気や障害などがあるが、家の中の生活でも誰かの手助けが必要で、日中も主にベッド(ふとん)上で生活している (3.0%)
6. 何らかの病気や障害などがあるが、トイレ、食事、着替えなども介助を要し、1日中ベッド(ふとん)の上にいる (2.4%)

■子どもさんとの同居についておたずねします。

問6 あなたには、お子さんがいらっしゃるかどうか。(○は1つ)

1. いる(別居) (51.3%) → 副問へ
2. いる(同居) (35.2%) → 問7へ
3. いない (10.5%)

副問 お子さんがいらっしゃる方で、現在お子さんと「別居」している方にお聞きします。

(1) あなたはお子さんによく行き来していますか(手紙や電話も含む)。(○は1つ)

1. 毎日のように行き来している (21.3%)
2. 週に1～2回 (27.6%)
3. 月に1～2回 (31.1%)
4. 年に数回 (13.9%)
5. この1年間ほとんどない (2.0%)
6. その他 () (2.0%)

(2) あなたはお子さんと同居したいと思われませんか。(○は1つ)

1. できれば同居したいと思う (10.3%)
2. 同居したいと思わないが、近くに住んでいてほしい (53.6%)
3. 同居したいと思わない (25.0%)
4. その他 () (4.3%)
5. わからない (3.2%)

(3) お子さんと同居していない主な理由は何ですか。(おもなものを3つ以内に○)

1. お互い健康で同居する必要がないから (34.3%)
2. 生まれ育った土地から離れたくないから (6.8%)
3. 同居できる家がないから (15.7%)
4. お互い気兼ねなく暮らしたいから (54.9%)
5. 子どもが別居を希望するから (9.1%)
6. 子どもや自分の仕事の関係があるから (20.3%)
7. その他 () (10.3%)

■あなたの家族の中での役割についておたずねします。

問7 あなたは、ご家族や親族の方々の中で、現在、どのような役割を果たしていますか。(おもなものを3つ以内に○)

1. 家事を担っている (36.5%)
2. 孫などの小さい子どもの世話をしている (6.3%)
3. 病気や障害を持つ家族・親族の世話や介護をしている (6.6%)
4. 家計を支えている (30.1%)
5. 家族・親族の相談相手になっている (16.8%)
6. 家族・親族の中のまとめ役になっている (10.2%)
7. その他 () (4.6%)
8. 特に役割はない (26.3%)

■あなたの仕事・就労のことについておたずねします。

問8 現在あなたは何か収入になる仕事をしていますか。(○は1つ)

1. 仕事をしている (34.4%) → 副問1へ
2. 仕事をしていない (62.6%) → 副問2へ

副問1 問8で「1. 仕事をしている」とお答えの方にお聞きします。

(1) どのようなお仕事ですか。(○は1つ)

1. 商工自営業 (26.0%)
2. 農林水産業自営業 (3.4%)
3. 家族従業員 (7.1%)
4. 会社役員 (9.3%)
5. 常用勤労者 (14.1%)
6. 臨時・日雇・パート (22.5%)
7. 内職 (5.4%)
8. その他 () (10.5%)

■ 隣近所づきあい等についておたずねします。

問11 あなたの隣近所とのおつきあいはどの程度ですか。(○は1つ)

1. 会えば挨拶をする (43.6%)
2. たまに立ち話をする (33.6%)
3. 預かりものをしたり、留守を頼んだりする (8.1%)
4. 困ったときに相談にのったり世話をしあう (6.4%)
5. ほとんどつきあいはない (5.7%)

問12 あなたご自身が地味や隣近所で、「手助けや協力ができそうなもの」は何でしょうか。また、逆にあなたや家族が「人の手助けや協力をあてにできそうなもの」は何でしょうか。(それぞれの設問であてはまる番号にすべてに○)

左の欄の当てはまる項目の番号に○を入れてください

あなたの手助けや協力ができそうなもの	あなたの手助けや協力をあてにできそうなもの
1 (47.9%)	1 (20.3%)
2 (19.0%)	2 (7.8%)
3 (27.3%)	3 (13.2%)
4 (14.2%)	4 (3.5%)
5 (18.1%)	5 (6.1%)
6 (17.9%)	6 (10.7%)
7 (20.8%)	7 (12.3%)
8 (2.1%)	8 (1.0%)
9 (12.4%)	9 (6.9%)
10 (10.1%)	10 (15.5%)

- 話し相手
- 家事の手伝い
- 食料品・日用品などの買い物
- 子どもたちの世話(遊び相手や見守り)
- ひとり暮らし高齢者などの見守りなど
- 急病人が出たときの世話や手伝い
- 冠婚葬祭の手伝い
- その他 ()
- すべてできそうにない
- わからない

■ あなたのお住まいの住宅・住環境のことについておたずねします。

問13 あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 持家(一戸建) (63.3%)
2. 持家(長屋棟) (6.8%)
3. 持家(マンション) (6.0%)
4. 民間の借家(一戸建) (5.0%)
5. 民間の借家(長屋棟) (2.9%)
6. 民間の借家(アパート・マンション) (2.4%)
7. 民間の借家(マンション) (2.7%)
8. 府営・市営住宅 (4.0%)
9. 公団・公社の賃貸住宅 (2.1%)
10. 社宅・公務員住宅など (0.2%)
11. 間借り (0.3%)
12. その他 () (1.7%)

(2) 現在働いている理由は何ですか。(おもなもの3つ以内に○)

1. 生活費をまかなうため (46.0%)
2. 生活費の不足を補うため (30.4%)
3. こづかいが欲しいから (12.1%)
4. 健康によいから (38.0%)
5. 友達がほしいから (3.0%)
6. 仕事そのものが面白いから (25.5%)
7. 何もしないでいると退屈だから (19.7%)
8. 社会のために役立ちたいから (14.9%)
9. その他 () (5.7%)

(3) いつまで働きたいと思っておられますか。(○は1つ)

1. 60歳~64歳 (9.4%)
2. 65歳~69歳 (26.3%)
3. 70歳~74歳 (28.3%)
4. 75歳以上 (28.0%)

副問2 問8で「2. 仕事をしていない」とお答えの方にお聞きします。(○は1つ)

仕事をしていない理由は何ですか。(おもなもの3つ以内に○)

1. 自分に合った適当な仕事がないため (20.8%)
2. 病気がちであるため (20.0%)
3. 家族が反対するため (2.2%)
4. 特に生活には困っていないから (27.7%)
5. 働きたくないから (4.4%)
6. その他の理由 () (29.2%)

問9 あなたの収入源は何ですか (おもなもの3つ以内に○)

1. 働いて得る給与等 (25.5%)
2. 国民年金など公的年金 (75.9%)
3. 恩給 (3.1%)
4. 企業年金等私的年金 (9.5%)
5. 預貯金の引き出し (18.0%)
6. 持家などの賃貸収入や利子配当所得 (6.8%) (14.1%)
7. 同居家族の収入 (3.4%)
8. 子どもからの援助 (2.6%)
9. 生活保護 () (2.0%)
10. その他 () (2.0%)

問10 あなたの年間の総収入(年金なども含む、税込みで)はいくらですか。(○は1つ)

1. 50万円未満 (8.9%)
2. 50~100万円未満 (19.5%)
3. 100~200万円未満 (23.5%)
4. 200~300万円未満 (19.4%)
5. 300~400万円未満 (10.7%)
6. 400~500万円未満 (4.4%)
7. 500~600万円未満 (2.4%)
8. 600~700万円未満 (1.2%)
9. 700万円以上 (3.9%)

問14 あなたは今の場所にどのくらいお住まいですか。(○は1つ)

1. 1年未満 (1.5%)
2. 1～2年未満 (1.7%)
3. 2～5年未満 (5.9%)
4. 5～10年未満 (7.1%)
5. 10～20年未満 (11.2%)
6. 20～30年未満 (16.5%)
7. 30年以上 (54.2%)

問15 あなたにとって、あなたが今、お住まいの地域（中学校区の範囲内）の住み心地はどうですか。(○は1つ)

1. とても住み心地がよい (23.6%)
2. まあまあ住み心地がよい (62.4%)
- 3.それほど住み心地がよくない (8.9%)
4. 非常に住み心地がよくない (1.3%)
5. その他 () (0.7%)



副問 問15で、「3」、「4」にお答えの方にお聞きします。
「住み心地がよくない」主な理由は何ですか。(おもなもの3つ以内に○)

1. 環境がよくないから (騒音がある、公園や緑が少ないなど) (44.7%)
2. 買い物などの日常生活が不便だから (29.4%)
3. 病院や公共施設 (福祉施設等) が近くないから (20.1%)
4. 安全でないから (事故や犯罪にやう危険性があるなど) (17.4%)
5. 近所での人間関係がよくないから (32.4%)
6. その他 () (18.7%)

問16 あなたは、今のお住まいからの住み替えを考えていますか。(○は1つ)

1. 考えている (12.3%)
2. 考えていない (73.7%)
3. わからない (9.1%)



副問 問16で「1. 考えている」とお答えの方にお聞きします。

(1) 住み替えを考えている理由は何でしょうか。(あてはまるもの全てに○)

1. 住宅事情のため (家が古い・狭い・日当たりがよくないなど) (45.5%)
2. 住宅環境のため (買い物などの日常生活が不便・周辺で騒音があるなど) (17.0%)
3. 家族事情のため (子どもとの問題、子どもの転勤、孫の教育など) (13.6%)
4. 近所づきあいが難いため (8.3%)
5. その他 () (22.8%)

(2) 住み替えはどのような地域を希望しますか。(○は1つ)

1. 京都市内のまちなかで便利なおところ (43.8%)
2. 京都市内の郊外で静かな緑の多いところ (27.9%)
3. 京都市外 (7.4%)
4. その他 () (8.9%)

問17 あなたは今の生活で何か困っていることやあなたの相談相手についておたずねします。

問17 あなたは今の生活で何か困っていることがありますか。(おもなもの3つ以内に○)

1. 自分や家族の健康のこと (38.8%)
2. 働く場のこと (4.3%)
3. 住宅事情や住環境のこと (8.4%)
4. 生きがいや楽しみのこと (12.3%)
5. 収入・財産・預金など経済的なこと (25.3%)
6. 家族関係のこと (7.0%)
7. 友人関係、近所づきあいのこと (3.4%)
8. その他 () (3.2%)
9. 特につまらぬことではない (39.5%)

問18 あなたに悩みや心配ことがある場合、気軽に相談できる相手はどのような人ですか。
(おもなものを3つ以内に○)

1. 家族・親戚 (79.9%)
2. 近所の知人・友人 (27.5%)
3. かかりつけ医 (20.8%)
4. 民生委員・児童委員、自治会役員 (2.2%)
5. 保健師、福祉事務所などの行政職員 (2.9%)
6. 在宅介護支援センターや介護サービス事業所の職員 (5.3%)
7. その他 () (2.9%)
8. 相談できる相手はいない (5.9%)

問19 あなたは、今の地域(中学校区の範囲程度)で生活していく上で、今後、必要とお感じになっていることは何ですか。(おもなものを3つ以内に○)

1. 特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどの介護サービス施設 (26.7%)
2. 地域内の身近な医療サービス(訪問医療、訪問看護など) (29.5%)
3. 公園・緑地などの憩える場所 (11.3%)
4. 地域の人が気軽に集える施設(集会所など) (16.0%)
5. 外出時の身近な交通手段(地域内の循環型バスなど) (12.9%)
6. 災害や犯罪などに対する地域での取組(防災・防犯体制など) (17.2%)
7. 近隣の助け合い意識・協力意識 (27.6%)
8. その他 () (1.2%)
9. 特になし (22.4%)

問20 次にあげられる中で、知りたいけれども分かりにくいと感じるのは何ですか。
(おもなものを3つ以内に○)

1. 仕事(就労あっせんなど)について (4.7%)
2. 年金について (19.3%)
3. 税金や相続について (15.7%)
4. 住宅(改装、転居など)について (5.3%)
5. 社会参加(ボランティアなど)について (6.9%)
6. 余暇活動や生涯学習・スポーツについて (9.5%)
7. 医療や健康問題について (23.9%)
8. 介護保険について (29.8%)
9. 社会福祉について (18.1%)
10. その他 () (0.9%)
11. 特になし (28.7%)

問21 あなたは、次にあげる社会問題についておたずねします。
(あてはまるもの全てに○)

1. 介護・医療・年金などの福祉に関すること (64.4%)
2. 自然保護やゴミ問題、地球温暖化防止などの環境に関すること (39.9%)
3. 青少年の健全育成や教育に関すること (28.3%)
4. 子どもの数の減少や子育て環境などの少子化に関すること (27.4%)
5. 人権に関すること (10.6%)
6. 景観や街並み保全などまちづくりに関すること (17.2%)
7. 地域の安全・安心に関すること(防災・防犯など) (39.6%)
8. 景気や就労・雇用などの経済問題に関すること (21.8%)
9. 国際問題・外交問題に関すること (18.4%)
10. その他 () (1.0%)
11. 特に興味・関心なし (9.0%)

問22 あなたの家に生活安全機器や情報機器の状況についておたずねします。
(あてはまるもの全てに○)

1. 消火器 (59.3%)
2. 住宅用火災警報器 (11.2%)
3. スプリンクラー (1.7%)
4. ガス漏れ検知器 (47.2%)
5. 自動火災報知設備 (マンション用) (7.3%)
6. 電磁調理器 (13.2%)
7. ホームセキュリティ (2.7%)
8. 緊急通報システム (5.4%)
9. 感知式防犯ライト (6.3%)
10. その他(具体的に) (1.1%)
11. 特になし (15.4%)

問23 あなたは、日頃、生活に必要な情報をどのようなものから得ていますか。
(あてはまるもの全てに○)

1. 人・口コミ (47.6%)
2. 新聞・雑誌・チラシ等 (84.6%)
3. テレビ・ラジオ (90.0%)
4. パソコン(メール・ホームページなど) (10.5%)
5. 携帯電話(メール・ホームページなど) (6.9%)
6. その他(具体的に) (0.7%)
7. 何も使っていない (2.1%)

■ あなたの交友関係についておたずねします。

問24 あなたは、ふだん親しくしている友人・仲間がどの程度いますか。(○は1つ)

1. たくさんいる (25.8%) 問25へ
 2. 少しいる (58.6%) 問24へ
 3. いない (11.9%) 問25へ

副問 問24で「1. たくさんいる」「2. 少しいる」と答えられた方にお聞きします。

あなたが、ふだん親しくしている友人・仲間ほどのような方ですか。

- (あてはまるもの全てに○)
 1. 学校時代の友人 (36.2%) 4. 趣味を通じた仲間 (44.4%)
 2. 職場の同僚・元同僚 (35.8%) 5. その他 (8.9%)
 3. 近所の人 (53.1%)

■ あなたが参加している社会活動についておたずねします

問25 あなたが、現在参加している団体や組織がありますか。(あてはまるもの全てに○)

1. 老人クラブ (11.6%)
 2. 町内会・自治会・女性会 (31.5%)
 3. 趣味のサークル・団体 (18.6%)
 4. 健康・スポーツのサークル・団体 (10.9%)
 5. 学習・教養のサークル (5.2%)
 6. 市民活動団体(NPO), ボランティア団体 (4.3%)
 7. その他 (7.8%)

問26 あなたは、この1年間に、個人または友人あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動に参加したことがありますか。参加した活動を全てお答えください

1. 趣味・文化・スポーツ活動 (30.3%)
 2. 生活環境改善(環境美化, 緑化推進, まちづくりなど) (7.3%)
 3. 生活安全活動(交通安全, 防犯・防災など) (8.6%)
 4. 高齢者への支援(家事援助, 移送など) (3.2%)
 5. 障害のある人の支援(家事援助, 移送など) (2.6%)
 6. 子育て支援(保育への手伝いなど) (1.9%)
 7. 地域行事(祭などの地域の催しもの世話など) (16.3%)
 8. 青少年の健全育成支援(見守り, 巡回指導など) (2.6%)
 9. その他 (2.1%)
 10. 参加したものはない (42.0%) → 副問2へ

副問1 問26で「1」～「9」に答えられた方にお聞きします。

(1) あなたが、最も力を入れて参加した活動はどれですか。(○は1つ)

1. 趣味・文化・スポーツ活動 (57.8%)
 2. 生活環境改善(環境美化, 緑化推進, まちづくりなど) (4.9%)
 3. 生活安全活動(交通安全, 防犯・防災など) (5.6%)
 4. 高齢者への支援(家事援助, 移送など) (2.6%)
 5. 障害のある人への支援(家事援助, 移送など) (1.9%)
 6. 子育て支援(保育への手伝いなど) (1.5%)
 7. 地域行事(祭などの地域の催しもの世話など) (15.2%)
 8. 青少年の健全育成支援(見守り, 巡回指導など) (1.1%)
 9. その他 (3.1%)

(2) あなたは、その最も力を入れた活動にどのくらい参加していますか。(○は1つ)

1. 毎週 (31.3%) 3. 年に数回程度 (20.3%)
 2. 月に1回程度 (20.7%) 4. 一定していない (21.7%)

(3) あなたが、その最も力を入れた活動に初めて参加した時期は、あなたの生活の上では、どの段階でしたか。(○は1つ)

1. 独身時代 (9.1%) 5. 子どもが自立してから (19.5%)
 2. 結婚してから (11.0%) 6. 退職してから (23.5%)
 3. 子どもを持ってから (10.0%) 7. その他 (9.0%)
 4. 子育てが終わってから (12.2%)

(4) あなたが、その最も力を入れた活動に参加したきっかけは、どのようなことからでしたか(あてはまるもの全てに○)

1. 友人, 仲間のすすめ (34.8%)
 2. 家族のすすめ (9.5%)
 3. 行政の広報紙をみて (5.7%)
 4. 活動団体の呼びかけ (12.1%)
 5. 自治会, 町内会の呼びかけ (28.6%)
 6. 個人の意志で (41.2%)
 7. その他 (2.1%)
 8. 特にない (1.6%)

(5) あなたが、その最も力を入れた活動に参加してよかったと思うことはどのようなことですか。(あてはまるもの全てに○)

1. 生活に充実感ができた (44.8%)
2. 自分の技術・経験を生かすことができた (19.2%)
3. 新しい友人を得ることができた (53.2%)
4. 社会への見方が広がった (22.2%)
5. 健康や体力に自信がいった (24.6%)
6. お互いに助け合うことができた (26.0%)
7. 地域社会に貢献できた (27.3%)
8. その他 (1.6%)
9. 特にない (4.9%)

副問2 問26で「10. 参加したものは無い」に答えられた方にお聞きします。

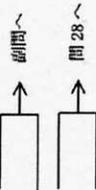
あなたがこの1年間にこれらの活動に参加しなかったのはどうしてですか。(あてはまるもの全てに○)

1. どのような活動が行われているか知らないから (17.9%)
2. 経費や手間がかかるから (4.3%)
3. 気軽に参加できる活動が少ないから (9.8%)
4. 同好の友人・仲間がいないから (13.6%)
5. 活動に必要な技術・経験がないから (6.0%)
6. 家庭事情(通院、家事、仕事など)があるから (27.7%)
7. 活動場所が近くにないから (4.1%)
8. 健康・体力に自信がないから (33.0%)
9. その他 (7.1%)
10. 特に理由はない (23.5%)

■あなたの社会活動への参加意向などについておたずねします。

問27 あなたは、グループや団体で自主的に行われている活動(地域での活動)に、今後とも(又は今後は)参加したいと思いますか。(○は1つ)

1. 参加したい (33.3%)
2. 参加したいが、事情があって参加できない (12.8%)
3. 参加したくない (15.8%)
4. わからない (22.1%)



副問 問27で、「1. 参加したい」「2. 参加したいが、事情があって参加できない」を選ばれた方にお聞きします。

現在参加している活動も含めて、今後、参加したいと思われる活動を選んでください。(あてはまるもの全てに○)

1. 趣味・文化・スポーツ活動 (69.0%)
2. 生活環境改善(環境美化、緑化推進、まちづくりなど) (24.4%)
3. 生活安全活動(交通安全、防犯・防災など) (18.9%)
4. 高齢者への支援(家事援助、移送など) (12.8%)
5. 障害のある人への支援(家事援助、移送など) (7.3%)
6. 子育て支援(保育への手伝いなど) (7.6%)
7. 地域行事(祭などの地域の催しもの世話など) (24.6%)
8. 青少年の健全育成支援(見守り、巡回指導など) (10.8%)
9. その他 () (3.3%)
10. 参加したいものはない () (3.2%)

問28 あなたは、社会活動に参加する際の条件としては何が重要だと思いますか。(主なもの3つ以内に○)

1. 一緒に活動する仲間がいること (41.5%)
2. 団体等から参加の呼びかけがあること (16.7%)
3. 団体の活動内容が事前によくわかること (21.7%)
4. 活動場所が家の近くにあること (25.8%)
5. 自分自身に活動に役立つ技術・経験があること (13.7%)
6. 活動時間や期間にあまり拘束がないこと (32.0%)
7. その他 () (2.6%)
8. わからない (11.8%)

問29 地域のためのボランティア活動を盛んにするために、どのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つ以内に○)

1. 団体活動の内容をより多くの人に知らせること (49.5%)
2. 団体活動のリーダー(指導者)を養成すること (21.0%)
3. 団体活動の拠点(集会所等)を整備すること (16.1%)
4. ボランティア活動に役立つ研修や講座をひらくこと (24.3%)
5. 活動に必要な機材の提供や金銭的援助を行うこと (14.4%)
6. その他 () (1.2%)
7. わからない (18.9%)

■今後拡充すべき高齢者福祉サービスについておたずねします。

問30 あなたは、国や自治体の高齢者福祉サービスについて、今後どのようなことを拡充すべきだと思いますか。(おもなもの3つ以内に○)

1. 特別養護老人ホームなどの福祉施設の充実 (37.0%)
2. 身近にあつて通えたり、一時的に宿泊できる小規模な福祉施設の充実 (37.5%) (22.9%)
3. 介護相談・介護指導・福祉関連の情報提供 (15.1%)
4. 福祉に携わる人材の養成と確保 (24.4%)
5. 介護が必要な状態になるのを防ぐ介護予防事業の充実 (6.5%)
6. 保健所での保健指導などの健康づくり事業の充実 (26.9%)
7. 高齢者の生きがい対策事業の充実 (30.4%)
8. 一人暮らし高齢者などの地域での見守り体制の整備 (1.2%)
9. その他 ()

問31 いずれ高齢期を迎える若い人々への助言や、行政への要望など自由にご意見をお聞かせください。

※調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。
※記入もれなどがないか、もう一度お確かめの上、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま平成17年9月22日(木)までにご返送下さい。

ボランティア団体・NPO団体調査票

ご協力をお願い

我が国は世界に例を見ない速さで人口の高齢化が進んでおり、約10年後(2015年)には、国民の4人に1人が、さらに35年後(2040年)には、3人に1人が65歳以上という長寿社会が到来します。

京都市におきましても、65歳以上の高齢者の全人口に占める割合が、平成17年7月には、20.1%と高齢化の進展が著しく、豊かな長寿社会の実現はまさに市政の最重要課題の一つとなっております。

この調査は、高齢者の社会参加を促進し、より多くの人が健康で生き生きとした生活を送れるように、多くの市民が社会参加の場として活動されているボランティア団体・NPO団体などに対して、団体の活動方針などをお聞きするもので、高齢者の方々が生きがいを持って安心して暮らすことができる長寿社会を実現するための重要な資料とさせていただきます。

なお、この調査票は、「ひと・まち交流館 京都」のホームページに登録され、情報公開されている団体にお送りしています。

この調査票にお答えいただいた内容は、統計資料を得る目的のみに使用し、皆様には不利益なことがないよう、秘密の保持には万全を期しておりますので、ご協力をお願いいたします。

【記入上のおお願い】

・調査票は封筒の宛名の方、**投票者の方が記入してください**。ただし代表者の方が不在など事情がある場合は代理の方でも結構ですが、できるだけ団体の状況がわかる方がご記入ください。

・お答えは、あてはまる番号に○をつけてください。質問により一つのみ回答していただくものと、複数回答していただくものがあります。質問に従ってお答えください。

記入していただいた調査票は、**同封の返信用封筒に入れ、平成17年9月22日(木)までにご返送ください**ますようお願いいたします。

平成17年9月

京都市

■この調査に関するお問い合わせおよび送付先

京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課 (担当：/代、後継)
電話 222-3406

■最初に貴団体の概要についておたずねします。

問1 貴団体名、所在地、連絡先、代表者名をお教え下さい。

■ 団体名： TEL：
 ■ 所在地：
 ■ 代表者名：
 ■ 貴団体の法人格の有無 (有り(33.9%)・無し(61.5%)) ← いずれかに○

問2 貴団体を設立して、何年経ちますか。(○は1つ)

- 1. 1年未満 (5.4%)
- 2. 1年以上3年未満 (14.9%)
- 3. 3年以上5年未満 (21.3%)
- 4. 5年以上10年未満 (23.5%)
- 5. 10年以上 (33.0%)
- 6. わからぬ (0.0%)

■団体構成員の状況についておたずねします。

問3 貴団体の構成員(会員)の人数は、どのような状況ですか。

全構成員(会員)数	人
日頃、主に活動している構成員(会員)数	人

問4 構成員の内、男女構成および年齢構成等は、どのような状況ですか。

- (1) 構成員の男女構成はどうですか。(○は1つ)
- 1. 男性の方が多い (31.7%)
 - 2. 女性の方が多い (45.2%)
 - 3. 男女半々 (21.3%)
- (2) 構成員の中心となる年齢構成はどうですか。(○は1つ)
- 1. 20歳以下が中心 (3.2%)
 - 2. 20歳代・30歳代が中心 (18.1%)
 - 3. 40歳代・50歳代が中心 (29.0%)
 - 4. 60歳代以上が中心 (25.8%)
 - 5. 特に年齢に偏りはない (20.4%)

問5 構成員(会員)の募集方法はどのような方法をとっていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 人の紹介 (71.0%)
- 2. 行政機関が発行する情報誌・ちらし・ホームページ (13.1%)
- 3. 団体自らが発行する情報誌・ちらし・ホームページ (51.6%)
- 4. ボランティア支援機関が発行する情報誌・ホームページ (21.3%)
- 5. 一般の新聞や雑誌 (16.7%)
- 6. その他 () (20.8%)

問6 構成員の主な参加地域はどこですか。(○は1つ)

1. 同じ区内の構成員が中心 (23.1%)
2. 構成員は地域には限定されていない(色々な地域から集まってくる) (62.0%)
3. メール会員など、かなり遠方の地域の構成員もいる (6.3%)
4. その他 () (6.8%)

■団体の設立動機・年間の活動予算等についておたずねします。

問7 団体の設立の動機は何ですか。(○は3つ以内)

1. 活動仲間を増やすため (13.6%)
2. 構成員の生きがいづくりのため (27.1%)
3. 構成員の知識・経験・資格を生かすため (29.0%)
4. 社会的信用を高めるため (10.0%)
5. 社会的な課題解決や市民ニーズに対応するため (61.5%)
6. 余暇を有効に活用するため (8.6%)
7. その他 () (24.9%)
8. わからない (0.5%)

問8 貴団体の年間予算は、おおむねどの程度ですか。(○は1つ)

1. 10万円未満 (19.5%)
2. 10～50万円未満 (24.4%)
3. 50～100万円未満 (13.6%)
4. 100～300万円未満 (14.5%)
5. 300～500万円未満 (6.3%)
6. 500～1000万円未満 (6.8%)
7. 1000万円以上 (11.3%)

問9 昨年(度)の収入源は、おおむねどの程度の比率となっておりますか。

- ・会費収入 () (%)
- ・事業収入 () (%)
- ・寄付金・助成金 () (%)
- ・その他収入 () (%) →具体的にそれは何ですか ()

■団体活動の内容についておたずねします。

問10 現在の主な活動分野は何ですか。また今後、特に力を入れたい分野(現在のところ、行っていないものも含む)は何ですか。それぞれの欄に○を付けてください。(あてはまるものすべてに○)

活動分野	現在の主たる活動分野	今後特に力を入れたい分野
1 高齢者福祉に関する活動	(29.0%)	(19.9%)
2 障害者福祉に関する活動	(35.7%)	(24.9%)
3 子育て支援に関する活動	(24.0%)	(15.8%)
4 子どもや青少年の健全育成に関する活動	(36.7%)	(22.6%)
5 社会教育の推進に関する活動	(23.1%)	(14.9%)
6 スポーツに関する活動	(8.1%)	(2.7%)
7 趣味・学習に関する活動	(19.5%)	(10.0%)
8 文化・芸術振興に関する活動	(20.4%)	(13.1%)
9 環境の保護・改善に関する活動	(17.6%)	(13.6%)
10 景観・町並み保存に関する活動	(7.2%)	(5.9%)
11 地域のまちづくりに関する活動	(21.7%)	(15.4%)
12 防犯・交通安全など地域の安全に関する活動	(4.1%)	(3.2%)
13 災害救援に関する活動	(4.1%)	(4.5%)
14 清掃・美化に関する活動	(6.8%)	(5.0%)
15 募金・チャリティイベントに関する活動	(5.4%)	(2.7%)
16 花壇・農園づくりに関する活動	(5.0%)	(3.6%)
17 男女共同参画社会の形成に関する活動	(7.2%)	(5.9%)
18 国内での地域交流に関する活動	(8.6%)	(6.8%)
19 国際交流・国際協力に関する活動	(13.1%)	(10.4%)
20 地域の祭りや催し物などに関する活動	(14.5%)	(7.7%)
21 情報化社会の推進に関する活動	(5.0%)	(2.7%)
22 科学技術の振興に関する活動	(1.8%)	(1.8%)
23 人権の擁護、平和の推進を図る活動	(14.9%)	(10.9%)
24 経済活動の活性化に関する活動	(5.0%)	(5.0%)
25 職業能力開発に関する活動	(3.6%)	(4.5%)
26 消費者保護に関する活動	(2.7%)	(3.6%)
27 その他 ()	(3.6%)	(3.2%)

問11 現在の主たる活動分野について具体的な内容をお教え下さい。代表的なものを3つまで下記にご記入ください。

活動分野	具体的な内容
①	
②	
③	

問12 団体活動のために構成員が普段集まる拠点となる場所はどこですか。(○は1つ)

1. 構成員の自宅 (15.4%)
2. 地域の集会所 (4.5%)
3. 幼稚園・学校 (1.8%)
4. 社会福祉施設 (12.2%)
5. 公共施設等の会議室など (26.7%)
6. お寺・神社・教会など (1.4%)
7. 特に決まっていない (5.9%)
8. その他 () (29.9%)

問13 活動頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

1. ほぼ毎日 (19.5%)
2. 週に数回程度 (17.2%)
3. 月に数回程度 (36.7%)
4. 年に数回程度 (9.5%)
5. 特に決まっていない (4.5%)
6. その他 () (11.3%)

問14 構成員以外の第三者に、何か具体的サービス(何か教えたり、手伝いをしあてあげたりするようなこと)を行っていますか。(○は1つ)

1. 行っている (70.1%)
 2. 行っていない (20.4%)
 3. わからない (5.4%)
- 副問 → 副問へ
→ 問15へ

副問 問14で「1. 行っている」とお答えになった団体にお聞きします。

(1) その主な対象者はどのような方ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 高齢者 (30.3%)
2. 障害のある方 (40.0%)
3. 女性 (14.8%)
4. 子ども (34.2%)
5. 外国人 (11.0%)
6. 特に対象者は限定していない (29.7%)
7. その他 () (18.7%)

(2) そのサービス内容はどのようなものですか。具体的にお答えください。

(3) その対象者に対する活動は、有償で行っていますか。(○は1つ)

1. 全て有償で行っている (8.4%)
2. 全て無償で行っている (43.2%)
3. サービス内容により有償で行っている (39.4%)
4. その他 () (7.7%)

問15 活動している、団体としてよかったと思うのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

問15 活動している、団体としてよかったと思うのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 団体の構成員に充実感ができた (59.3%)
2. 団体に新しい仲間が増えた (53.8%)
3. 団体構成員の技術・経験を磨くことができた (49.8%)
4. 団体活動が利用者に喜ばれた (72.4%)
5. 団体活動として地域社会に貢献できた (58.4%)
6. その他 () (8.6%)
7. 特によかったことはない (1.4%)

問16 貴団体のこれまでの活動に際して、困り事やわからないことなどがあつた時、相談できる相手はどのような所でしたか。(あてはまるものすべてに○)

問16 貴団体のこれまでの活動に際して、困り事やわからないことなどがあつた時、相談できる相手はどのような所でしたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 行政の担当窓口・行政職員 (25.8%)
2. 社会福祉協議会 (19.0%)
3. 社会福祉施設の職員 (13.1%)
4. 市民活動総合センター (20.8%)
5. 福祉ボランティアセンター (16.7%)
6. 景観・まちづくりセンター (4.1%)
7. 長寿すこやかセンター (1.4%)
8. ボランティア団体のネットワーク(類似活動をしている他団体など) (32.6%)
9. その他 () (21.3%)
10. 特に相談する相手はなかった (17.2%)

■団体活動への高齢者の参加についておたずねします。

問17 貴団体への高齢者の参加について、どう考えますか。(○は1つ)

1. すでに参加してもらっている (56.1%) → 副問1へ
 2. 積極的に参加してほしい (24.9%) →
 3. 参加してもらうのは難しい (14.9%) → 副問2へ

副問1 問17で「1. すでに参加してもらっている」, 「2. 積極的に参加してほしい」とお答えになった団体にお聞きします。

新たに参加する (又はすでに参加している) 高齢者に最も期待することは何ですか。(○は1つ)

1. 経験を生かした専門的な知識, 活動 (52.5%)
 2. 年長者としてのリーダーシップ (4.5%)
 3. 退職などで参加できる時間の長さを活かした恒常的な活動 (29.1%)
 4. その他 () (12.3%)

副問2 問17で「3. 参加してもらうのは難しい」とお答えになった団体にお聞きします。

その主な理由は何ですか。(○は1つ)

1. 既存構成員と世代が違うので, 意思疎通がうまくいかないと思うから (0.0%)
 2. 活動の性格上, 高齢者が活動するには難しいものがあるから (48.5%)
 3. 活動内容自体が高齢者に不向きであるから (24.2%)
 4. その他 () (27.3%)

問19 貴団体活動において, 他の活動団体と交流することは重要だと思いますか。(○は1つ)

1. とても重要だと思う (34.4%) 4. 重要ではない (3.2%)
 2. 重要だと思う (42.1%) 5. わからない (5.0%)
 3. あまり重要ではない (11.8%)

■団体活動に際しての課題についておたずねします。

問20 現在, 貴団体が抱えている課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 新しい参加者が増えないこと (29.9%)
 2. 高齢者の参加が少ないこと (3.6%)
 3. 若い人の参加が少ないこと (33.9%)
 4. 役員のなり手や候補者がいないこと (15.4%)
 5. 活動の機会が増えたため人手が足りないこと (25.8%)
 6. 構成員の労力や事務的負担が大きいこと (33.5%)
 7. 構成員の経済的負担が大きいこと (21.3%)
 8. 団体活動経費が不足していること (42.5%)
 9. 活動を提供する場・機会が少ないこと (11.3%)
 10. 事務所など活動拠点が確保できないこと (14.0%)
 11. 活動に対する社会的評価(社会的理解)が少ないこと (15.8%)
 12. 活動をPRする手段が少ないこと (22.6%)
 13. 団体活動に必要な知識・技能などを習得する機会がないこと (3.6%)
 14. 他の団体との情報交換の機会がないこと (5.9%)
 15. 相談できる相手がいらないこと (2.3%)
 16. その他 () (9.0%)
 17. 今のところ課題や悩みはない (7.7%)

■団体活動の今後の展開方針についておたずねします。

問21 貴団体の活動の今後の展開について, お教え下さい。(○は1つ)

1. 活動をさらに拡大していきたい (59.3%)
 2. 現状のままでもいいと考えている (19.0%)
 3. 現在の活動が維持できるかを心配している (13.1%)
 4. その他 () (5.9%)

■市民活動の促進方法についておたずねします。

問22 一般的に市民活動を促進するために、特に求められることは何だと思われませんか。次の分類（行政、地域、団体）別にお答えください。

(1) 行政に、より一層求められることは何ですか。(主なもの3つ以内に○)

1. 施設の提供 (50.2%)
2. 情報の提供 (47.5%)
3. 学習の場の提供 (19.9%)
4. 相談窓口の充実 (17.6%)
5. 担当する職員・能力向上 (34.4%)
6. 業務や事業の委託 (28.1%)
7. その他 () (10.4%)
8. 特にない (5.4%)

(2) 地域に、より一層求められることは何ですか。(主なもの3つ以内に○)

1. 住民・企業による活動拠点の提供 (24.9%)
2. 活動に対する理解 (53.4%)
3. 活動への参加 (45.2%)
4. 提供サービスの活用・利用 (23.5%)
5. 各種団体による情報交換と連携 (25.3%)
6. 地域内の情報集約と提供 (19.0%)
7. その他 () (2.3%)
8. 特にない (10.0%)

(3) 団体自身に、より一層求められることは何ですか。(主なもの3つ以内に○)

1. 活動資金の確保 (53.8%)
2. 活動拠点の確保 (18.6%)
3. 広報機能の充実 (31.2%)
4. 専門知識の習得 (21.7%)
5. 情報公開 (5.9%)
6. 構成員(会員)の積極的な参加 (32.6%)
7. 他の団体との連携 (15.8%)
8. 新分野への挑戦 (13.1%)
9. 活動の場の拡大 (19.0%)
10. 構成員(会員)の拡大 (27.6%)
11. NPO法人格の取得 (4.5%)
12. その他 () (0.9%)
13. 特にない (1.8%)

■高齢者に対する支援活動についておたずねします。

問23 少子高齢化が進む中、地域では、一人暮らし高齢者の孤独死、高齢者虐待、老々介護など、様々な問題が発生しています。このような地域の問題に対して、すでに各種ボランティア団体・NPO団体においても、様々な支援活動が展開されているところですが、貴団体では、こうした活動についてどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. すでに実施している (15.8%) → 副問1へ
2. 実施していないが、今後実施していきたい (18.1%) → 副問1へ
3. 必要性は理解するが、実施は難しい (25.3%) → 副問2へ
4. そもそも当団体の活動目的になじまない (29.0%)
5. わからない (4.5%)

副問1 問23で「1.すでに実施している」とお答えになっている団体にお聞きします。

具体的にどのような活動を実施されていますか。代表的なものを3つまでご記入ください。

- ①具体的に
- ②具体的に
- ③具体的に

副問2 問24で「2.実施していないが、今後実施していきたい」、「3.必要性は理解するが、実施は難しい」とお答えになった団体にお聞きします。

実施するに当たっての課題(条件)は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 活動の人手 (51.0%)
2. 活動のための資金 (42.7%)
3. 活動の方法 (50.0%)
4. 活動の対象となる高齢者の情報 (36.5%)
5. その他 () (22.9%)

■住民相互の助け合いの考え方についておたずねします。

問24 核家族化や少子高齢化が進む中で、私たち住民の日常生活で直面する課題(例えば子育て支援やひとり暮らし高齢者家庭における家事援助など)に対応していくためには、行政サービスだけではなく「住民相互の支え合い」が重要となると考えられます。

今後、貴団体が、こういった住民相互の支え合いに関わるサービスを担うとしたら、どのようなことが必要になると考えますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 活動に対する地域や住民の理解 (47.5%)
- 2. 住民ニーズの所在・内容等の情報、具体的な活動対象 (37.1%)
- 3. 地域住民や自治会などとの連携 (43.9%)
- 4. 構成員自身の意識向上 (35.3%)
- 5. その他 () (8.1%)
- 6. わからない (10.4%)

■自由記述

問25 団体を運営していて、苦労した点、よかった点など、何かエピソードがあればお聞かせ下さい。

問26 今後の高齢社会に対応していただくため、行政への要望などを含めて何かご意見があれば、自由にご意見をお聞かせください。

問27 最後に、今後の高齢社会対策に当たって、ボランティア団体・NPO団体の皆様の声を反映させることを目的として、後日、いくつかの団体へヒアリング調査を行うことを考えております。貴団体では、このヒアリング調査にご協力いただけますか。

- 1. 協力できる
- 2. 協力できない

※ 調査はこれで終了です。調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。記入もれなどがないかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒に入れ、平成17年9月22日(木)までにご返送下さい。

京都市高齢社会対策実態調査報告書
(概要版)

平成17年度実施

発行 平成18年9月
編集 京都市高齢社会対策実態調査研究会
編集協力 (社)システム科学研究所

